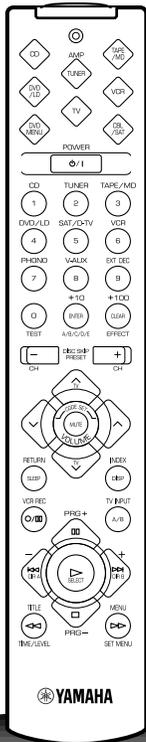
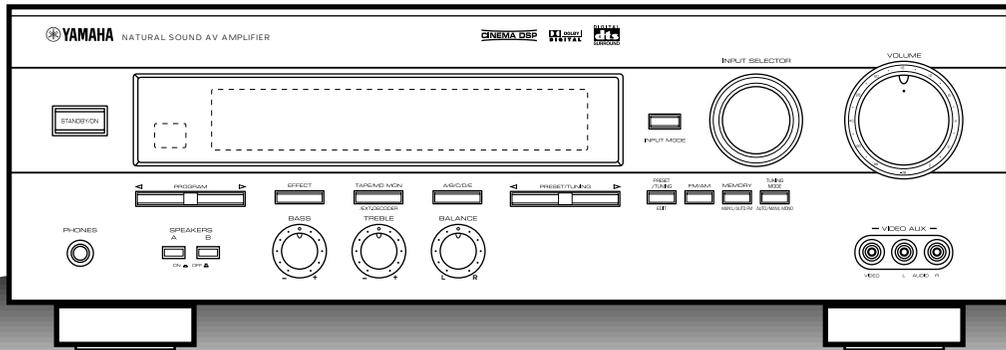




NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-R496

取扱説明書



このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-R496をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DSP-R496の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用前に必ずお読みください

はじめに

準備

基本操作

応用操作

参考

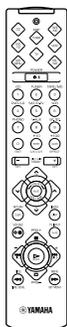


はじめに

付属品

以下のものがすべてそろっているか、確認してください。

リモコン



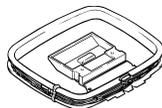
単4乾電池4本



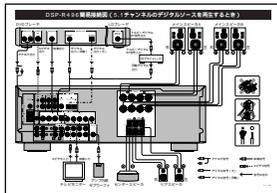
FM簡易アンテナ



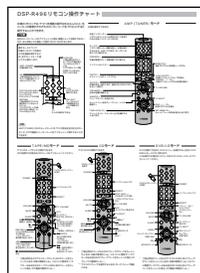
AMループアンテナ



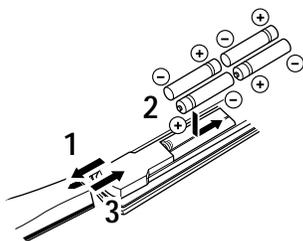
簡易接続図



リモコン操作チャート



乾電池を入れる



- 裏ぶたをはずす。
- 付属の単4乾電池 4本 を、リモコンの電池ケース内の表示に従って、プラス (+) とマイナス (-) の向きを間違えないように、正しく入れる。
- 裏ぶたを戻す。

乾電池の交換

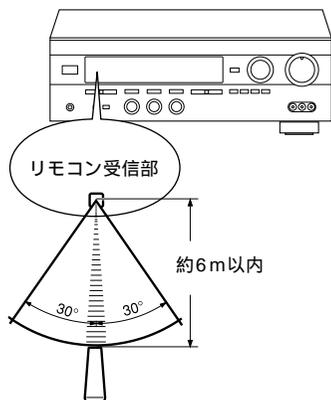
リモコン受信部に近寄らないと動作しない場合は、乾電池を交換してください。

メーカーコードの保持について
乾電池は2分以内に取り替えてください。乾電池を取り出した場合、お客様ご自身でプリセットされたメーカーコードは約2分保持されますが、それ以上経過すると消える場合があります。

メモ

- 種類の異なる乾電池 (アルカリとマンガンなど) を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きは必ず表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。
- 液もれが起こったときは、液にふれないよう、また衣服につかないよう気をつけながら、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

リモコンの使用範囲



リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受信部に向けて正しく操作してください。受信部を覆ったり、リモコンと受信部の間に障害物があると動作しません。また、受信部に直射日光や強い照明 (インバーター蛍光灯など) が当たっていると、リモコンが働きにくくなります。その場合は照明または本体の向きを変えてください。

メモ

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- リモコンに衝撃を与えないでください。
- 下記のような場所には置かないでください。
 - ストープのそばや風呂場など、湿度・温度の高いところ
 - ほこりの多いところ
 - 極端に温度が低いところ



特長

5チャンネルのパワーアンプ内蔵

定格出力 (20Hz~20kHz、0.06%THD、6)
 メインL/R 65W+65W
 センター 65W
 リアL/R 65W+65W

多様なホームシアター機能搭載

DSP (デジタルサウンドフィールドプロセッサ)
 ドルビーデジタルデコーダ
 ドルビープロロジックデコーダ
 DTSデコーダ
 シネマDSP : ヤマハDSP技術とドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTSの各デコーダの融合により映画館のような視聴体験を可能にします。
 自動入力バランスコントロール機能 (ドルビープロロジックデコード時)

FM/AMチューナ搭載

40局のプリセットが可能
 FM局のオートプリセット機能
 プリセット局のエディット機能

その他の機能

お手持ちのシステムに最適化する11項目のセットメニュー
 スピーカの出力バランス調節用テストトーン出力機能
 6チャンネルの外部デコーダ入力
 Sビデオ端子を含むビデオ入出力端子
 デジタル入力端子 : 光 (×2)、同軸 (×1)
 スリープタイマー
 多様な機器に対応するプリセットリモコン



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。DOLBY、PRO LOGICおよびダブルD記号 ■■ は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
 非公開機密著作物。著作権1992~1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



DTS Technology LLCからのライセンスに基づき製造されています。
 さらに、以下のPCT(特許協力条約)US95/0059に由来する米国特許5,451,942および米国国内特許出願によるライセンスを受けています。米国特許および外国特許を追加出願中です。
 “DTS”はDTS Technology LLCの商標です。
 なお、これらの一部または全部を許可なしに複製することはできません。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

各部の名称 2

はじめに

準備

スピーカの設定 6
 接続のしかた 7
 スピーカレベルの調節 16

準備

基本操作

再生する 18
 音場効果を楽しむ 22
 音場プログラムについて 23
 FM/AM放送を聴く 26
 録音/録画する 30

基本操作

応用操作

セットメニュー 31
 ディレイタイムとスピーカレベルの調節... 35
 スリープタイマー 37
 リモコンで接続機器を操作する 38

応用操作

参考

故障かなとおもったら 47
 仕様 50
 用語集 51
 索引 52

参考

には操作上のヒントが記載されています。

安全上のご注意

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊙記号は禁止の行為であることを告げるものです。



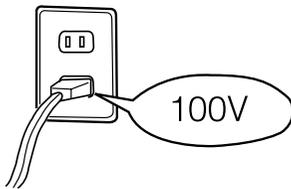
記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

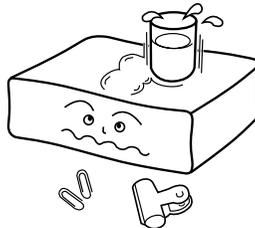
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



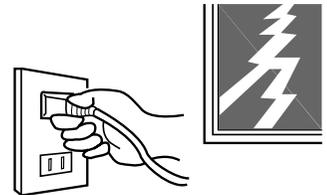
火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

- ⊘ 水を入れたり、ぬらさない



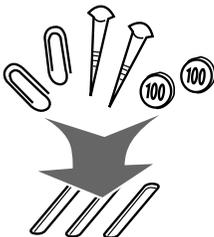
火災・感電の原因となります。
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

- ⊘ 雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



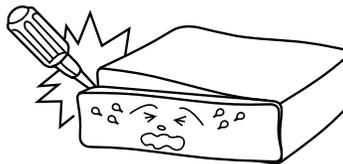
感電の原因となります。

- ⊘ 通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしない



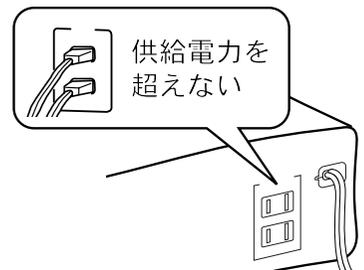
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- ⊘ 分解・改造を絶対しない
分解禁止（キャビネットをはずすことも含む）



火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



火災の原因となります。
接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど)は接続しないでください。

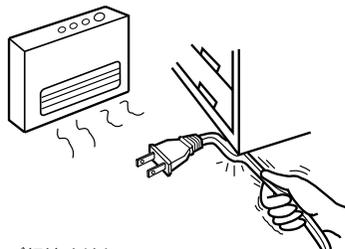


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

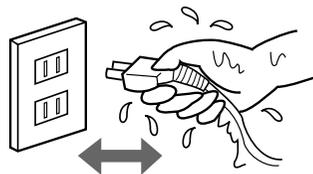
⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っ張る、束ねる、重いものをのせるなどしない)



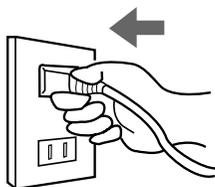
火災・感電の原因となります。
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

❗ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



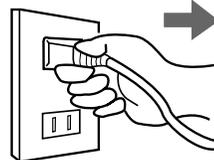
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っ張らないでください。
傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

❗ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる



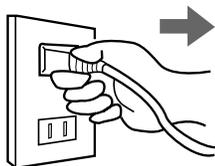
プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

❗ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



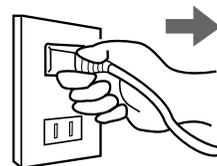
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

❗ 煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

❗ 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



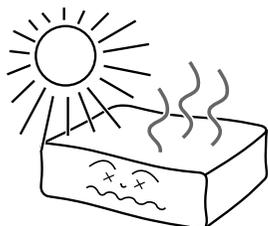
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



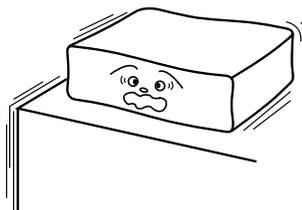
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



火災・感電の原因となります。

- ⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



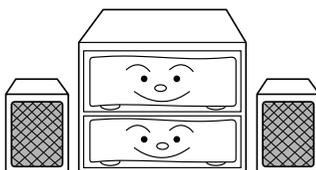
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

- ⊘ 通風孔をふさがない



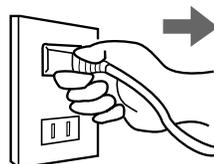
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

- ⚠ 放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く



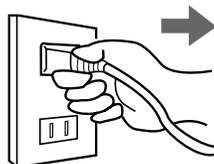
火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。

- 🔌 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



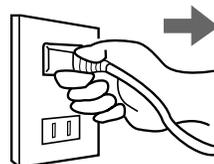
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

- 🔌 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



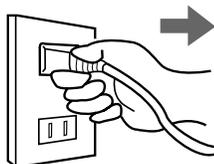
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

- 🔌 お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

- 🔌 長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



火災の原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- ⚠ 電源を入れる前には音量を最小にする



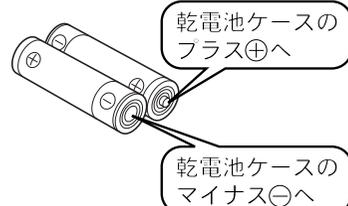
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

- ⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

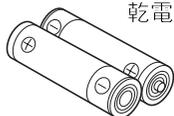
- ⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)通りに入れる



間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

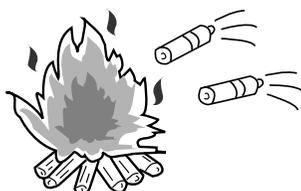
- ⊘ 指定以外の乾電池は使用しない

取扱説明書に記載されている乾電池を使用する



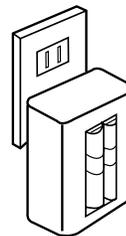
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

- ⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因になります。

- ⊘ 乾電池は充電しない



液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因になります。

- ⚠ アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

- ⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

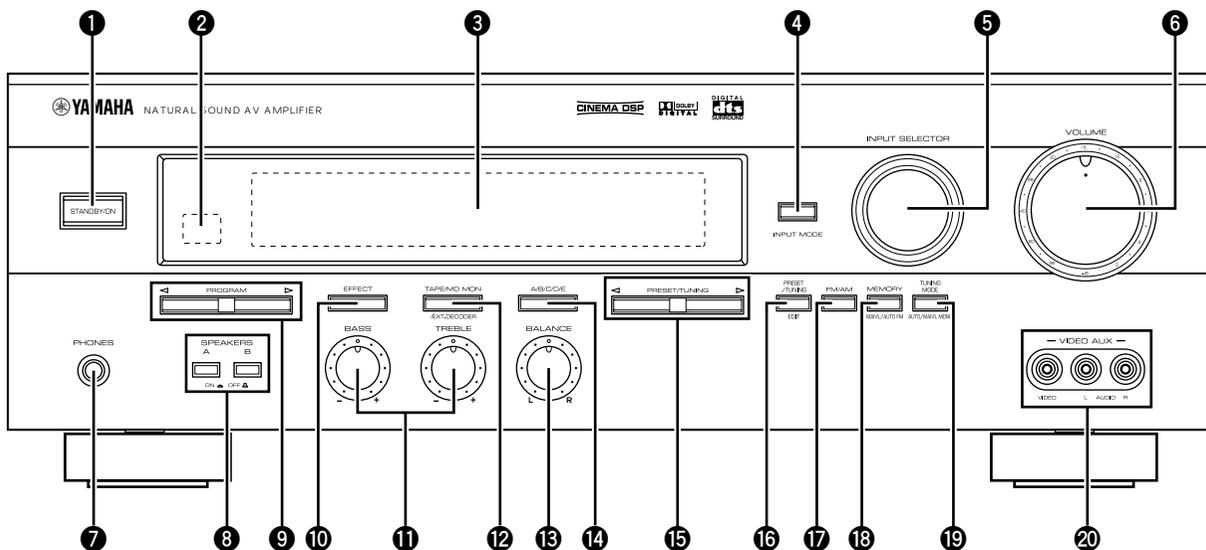
本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されています。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。



各部の名称

フロントパネル



① スタンバイ/オン STANDBY/ONスイッチ

本機の電源をオン/スタンバイモードに切り換えます。電源を入れるときは音量を にあわせてください。

スタンバイモード

リモコンのPOWERキーでも本機の電源をオンにすることができます。スタンバイモードではディスプレイの表示はすべて消えています。リモコンの信号を受けたり本機の設定を保持するために、ごく少量の電力を消費します。

② リモコン受信窓

付属のリモコンの信号(赤外線)を受けます。

③ ディスプレイ

動作状況などを表示します。(4ページ)

④ インプットモード INPUT MODEキー

DVD/LDとSAT TVの入力モードをAUTO、DTS、ANALOGに切り換えます。

⑤ インプットセレクタ

再生したい入力ソース(TUNER、CD、PHONO、V-AUX、VCR、SAT/D-TV、DVD/LD)を選びます。ディスプレイの入力ソースインジケータでは、選ばれた入力ソースの矢印が点灯します。

⑥ ボリューム VOLUMEつまみ

全体の音量を調節します。

⑦ ホーンズ PHONES端子

ヘッドホンを接続します。メインスピーカから出力される音をヘッドホンで聴くことができます。ヘッドホンだけで聴くには、SPEAKERSスイッチ(A・B)を両方オフにし、さらにEFFECTキーを押して音場効果をオフにします。メインおよびエフェクトスピーカ(センター、リア)から音は出ません。

⑧ スピーカーズ SPEAKERS A/Bスイッチ

本機に接続されたメインスピーカAかB(またはA・B両方)を選びます。

⑨ プログラム PROGRAMキー

◀または▶を押して、音場プログラムを選びます。選ばれたプログラムがディスプレイに表示されます。

⑩ エフェクト EFFECTキー

音場プログラムの効果をオン/オフします。オフにすると、各エフェクトチャンネル(センター、リア)の音声は、すべてメインスピーカから出力されます。

⑪ トーンコントロール

メイン左右チャンネルの低音(BASS)・高音(TREBLE)を調節します。

トーンコントロール(BASS・TREBLE)はメイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

⑫ テープ/エムディモニター/エクスターナルデコーダ TAPE/MD MON/EXT. DECODERキー

テープまたはMDを入力ソースに選ぶときに押します。TAPE/MD MONITORインジケータが点灯します。もう一度押すと、EXTERNAL DECODER INPUTにつないだ機器が入力ソースに選ばれ、“EXT. DECODER”と表示されます。

13 バランス BALANCEつまみ

メイン左右チャンネルの音量バランスを調節します。0を基準にL側に回すほどR(右)側の音が小さくなり、R側に回すほどL(左)側の音が小さくなります。スピーカの位置や、視聴するお部屋の状態にあわせて調整してください。

14 A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くとき、プリセットした局のグループ(A/B/C/D/E)を選びます。

15 プリセット/チューニング PRESET/TUNINGキー

“>”が表示されているとき

プリセットした局番(1~8)を選びます。▶を押すと正順に、◀を押すと逆順に数字が切り換わります。

“>”が表示されていないとき

マニュアルで選局します。高い周波数の放送局を探すときは▶を、低い周波数の放送局を探すときは◀を押します。

16 プリセット/チューニングエディット PRESET/TUNING EDITキー

プリセットした局番を選ぶモード(“>”が表示される)と、マニュアルで選局するモード(“>”が表示されない)を切り換えます。また、プリセットした局を入れ換えるときに押します。

17 エフエム/エーエム FM/AMキー

AM放送とFM放送を切り換えます。

18 メモリー(マニュアル/オートエフエム) MEMORY(MAN'L/AUTO FM)

受信したFM/AM局をプリセットするときや、FM局をオートプリセットするときに押します。

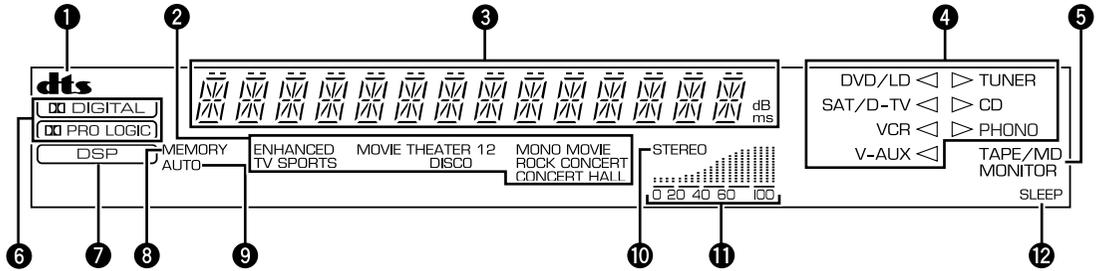
19 チューニングモード(オート/マニュアルモノ) TUNING MODE(AUTO/MAN'L MONO)

マニュアル(手動)選局とオート(自動)選局を切り換えます。オート選局を選んだときはAUTOインジケータが点灯します。

20 ビデオ VIDEO AUX端子

8ミリビデオなどのビデオ機器を接続する予備入力端子です。入力ソースとして選ぶときはインプットセレクトを使ってください。

ディスプレイ



① dtsインジケータ

内蔵のDTSデコーダが動作しているとき点灯します。

② 音場プログラムインジケータ

以下のようなとき、選択されている音場プログラム名が点灯します。

- 入力ソースがTUNERになっているとき
- 音場プログラムのNo. 2か3、およびサブプログラムのENHANCEDが選ばれているとき

③ インフォメーションディスプレイ

選択されている入力ソースやセットメニューの設定項目、受信している放送局の周波数など、さまざまな操作情報を表示します。

④ 入力ソースインジケータ

入力ソースに選ばれている機器の矢印が点灯します。

⑤ TAPE/MD MONITORインジケータ

テープまたはMDを入力ソースに選んでいるとき点灯します。

⑥ DIGITAL / PRO LOGICインジケータ

内蔵のドルビーデジタルデコーダが動作しているとき“DIGITAL”が、内蔵のドルビープロロジックデコーダが動作しているとき“PRO LOGIC”が点灯します。

⑦ DSPインジケータ

内蔵のDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサ)で音場処理されているときに点灯します。

⑧ MEMORYインジケータ

チューナの放送局をプリセットするとき、MEMORYキーを5秒以上押すと点滅します。

⑨ AUTOインジケータ

チューナの選局モードをオートにすると点灯します。

⑩ STEREOインジケータ

ステレオ放送を受信すると点灯します。

⑪ 受信強度インジケータ

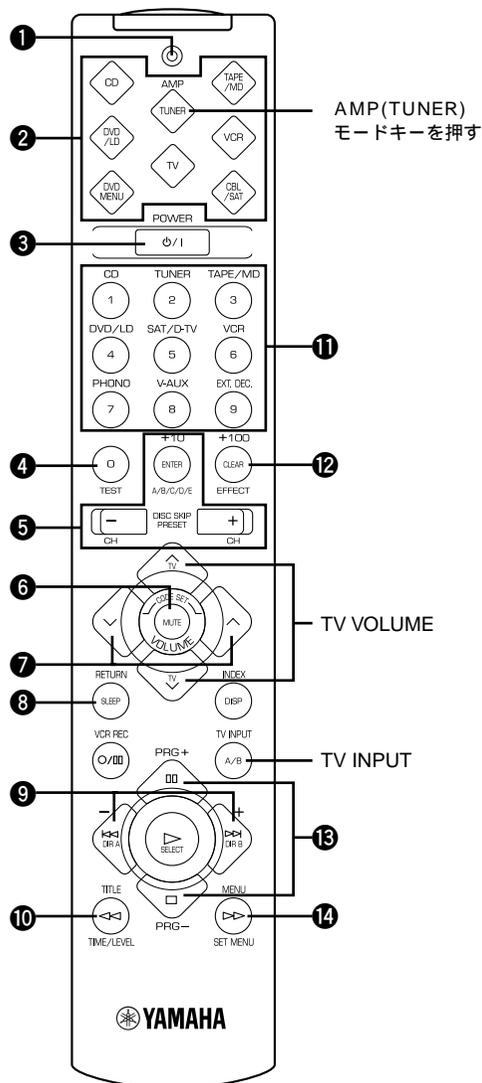
チューナの受信電波の強さを示します。

⑫ SLEEPインジケータ

スリープタイマーの動作中に点灯します。

リモコン

ここでは、本機を操作するときの基本的なリモコン機能について説明します。本機を操作するときは、最初にAMP(TUNER)モードキーを押してください。本機についている各機器の操作については、38～42ページをご覧ください。



① 送信インジケータ

リモコンのボタンを押したとき赤く点灯します。数回点滅したときは、正しく信号が送られていない可能性がありますので、もう一度ボタンを押し直してください。

② モードキー

リモコン操作したい機器を選びます。本機を操作するときには、AMP(TUNER)モードキーを押してから操作します。(本機につないだ機器の操作は、お手持ちの機器に合ったコードがセットされていないとできません。43ページをご覧ください。)

③ POWERキー

本機の電源をオン/スタンバイモードに切り換えます。

④ TESTキー

各スピーカーからテストトーンを出力します。

⑤ A/B/C/D/Eキー、PRESET +/- キー

プリセットした局を選びます。
A/B/C/D/Eキー：プリセットした局のグループを選びます。
PRESET +/- キー：プリセットした局番(1～8)を選びます。

⑥ MUTEキー

本機の音を消します。解除するにはMUTEキーをもう一度押します。

⑦ VOLUMEキー

全体の音量を調節します。
↑：音量を上げます。
↓：音量を下げます。

⑧ SLEEPキー

スリープタイマーを設定します。

⑨ +/- キー

セットメニューの設定、ディレイタイム、スピーカー出力の調節のときに項目を選びます。

⑩ TIME/LEVELキー

ディレイタイム、スピーカー出力を調節するときに押します。

⑪ インプットセクタ

再生したい入力ソースを選びます。

CD：CDを聴く。
TUNER：FM/AM放送を聴く。
TAPE/MD：テープまたはMDを聴く。
DVD/LD：DVDまたはLDを見る。
SAT/D-TV：テレビまたは衛星放送を見る。
VCR：ビデオを見る。
PHONO：アナログレコードを聴く。
V-AUX：8ミリビデオなど予備入力端子に接続したビデオ機器を見る。
EXT. DEC.：外部デコーダからの音声を聴く。

⑫ EFFECTキー

音場効果をオン/オフします。

⑬ PRG +/- キー

音場プログラムを選びます。

⑭ SET MENUキー

セットメニューを設定するときに押します。



スピーカの設定

スピーカシステムについて

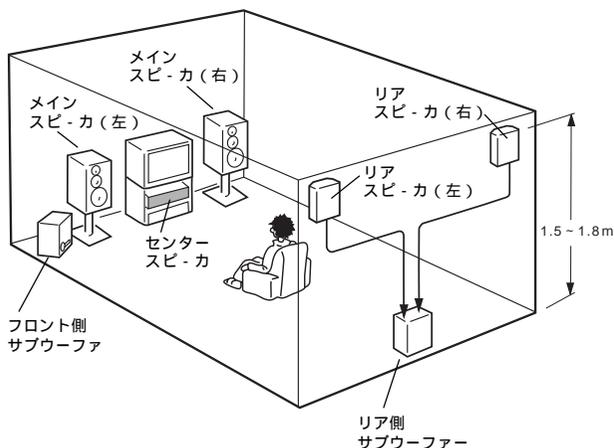
本機の音場は、5本のスピーカ(メイン左右、センター、リア左右)で効果的に再生できるようデザインされています。複数のメーカーのスピーカを使用する場合など、スピーカの音質が違ったり、映画などで人物が移動するとき、声の音色が不自然に変わることがあります。なるべく音色のそろったスピーカをお使いください。

メインスピーカは主音声と音場効果を再生するために使います。リアスピーカは音場効果とサラウンド音声を、センタースピーカはセリフやボーカルなどを再生します。センタースピーカを使わなくても音場効果は楽しめますが、やはりフルシステムにすることによってリアルな臨場感が再現されます。

メインスピーカには十分なパワーと高い再生能力を備えたものをお使いください。その他のスピーカはメイン同様のものではないのですが、正確な音の定位のためにはすべての音域を再生できるようなスピーカが理想的です。

スピーカの配置

下図のような位置関係が理想的です。

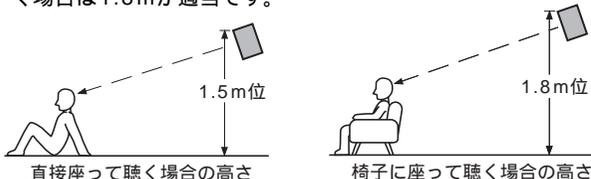


メインスピーカ

左右メインスピーカは視聴位置から等距離に設置します。モニター(テレビまたはスクリーン)をはさんで置く場合は、左右のスピーカとモニターの距離を同じにします。

リアスピーカ

視聴位置の後側に、少し内向き、下向きに設置します。高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合は1.8mが適当です。



センタースピーカ

テレビを設置している場合は、テレビ画面とスピーカの前縁をそろえてください。できるだけモニターの近く(下または上)に、またメインスピーカの中間に位置するように設置してください。

メモ

センタースピーカを使わないとき、センターチャンネルの音はメインスピーカから出力されます。この場合、セットメニューの「CENTER SP」は、「NONE」にしてください。

サブウーファ

スピーカシステムにサブウーファを加えると、映画再生時の迫力や臨場感を大きく改善できます。各チャンネルの低音域を増強するだけでなく、ドルビーデジタルやDTSのソフトを再生するときにはLFE(Low Frequency Effect 低域専用のチャンネル)の音が忠実に再現されます。ヤマハアドバンストYSTシステム搭載のサブウーファは、自然で躍動感のある重低音を再生します。

サブウーファはフロント側、リア側に1台ずつ設置することをおすすめします。

フロント側サブウーファは、セットメニューの「BASS OUT」の設定にしたがって信号を出力します。EXT. DECODER(外部デコーダ)入力の場合はEXTERNAL DECODER INPUTのSUB WOOFER端子に入った信号をそのまま出力します。

映画ではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。メイン側の低音とリア側の低音が再現されると迫力だけでなく、特にCINEMA-DSP音場プログラムのリアリティが大きく改善されます。

フロント側サブウーファ

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聞こえ方は、スピーカを置く位置と聞く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

リア側サブウーファ

視聴位置より後方に設置します。左右の位置は関係ありません。

リア専用のサブウーファは、リアスピーカのL、R端子からスピーカコードで接続します。詳しくは、サブウーファの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

スピーカによっては、モニターの画面が乱れることがあります。その場合はスピーカを離してください。画面近くに設置するセンタースピーカやサブウーファには、防磁型スピーカの使用をおすすめします。



接続のしかた

正しい接続のために

ご注意

接続が完了するまでは、絶対に本機の電源を入れないでください。

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)や+/-がある場合は、必ず確認して正しく接続してください。接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ヤマハのオーディオ機器(CDプレーヤ、MDプレーヤなど)を接続する場合は、各機器と本機と同じ番号(①、②、③など)のついた端子どうしを接続してください。

オーディオ/ビデオ機器の接続には、市販のピンプラグコードをご用意ください。入/出力端子の色と接続に用いるピンプラグコードは次のように分類されます。

黄	映像信号接続コード(コンポジット)	
白	アナログ音声信号接続コード(左)	
赤	アナログ音声信号接続コード(右)	
—	同軸デジタル接続コード	

光デジタル端子の接続には市販の光ファイバークーブルを、スピーカの接続にはスピーカコードを別途をご用意ください。

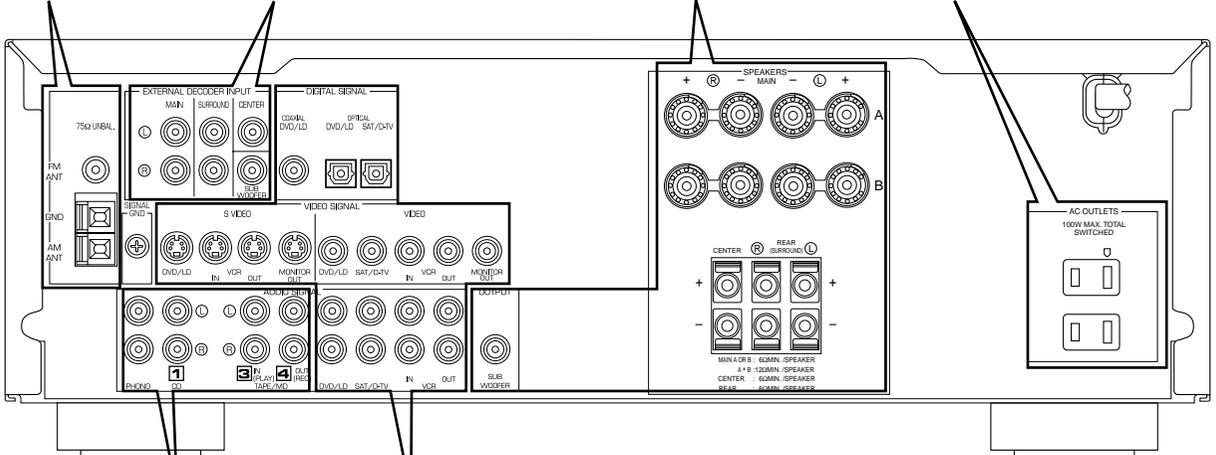
接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

アンテナの接続
(8ページ)

外部デコーダの接続
(12ページ)

スピーカの接続
(13ページ)

電源供給コンセントの接続
(15ページ)



オーディオ機器の接続
(10ページ)

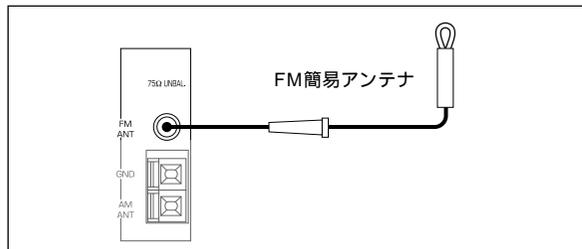
ビデオ機器の接続
(11ページ)

アンテナの接続

AM、FMの室内用アンテナが付属されていますが、放送局からの距離、ビルや山のかけなどのために良好な受信ができにくいときは、屋外アンテナを設置することで改善される場合もあります。

アンテナはそれぞれの端子に正しく接続してください。

FM簡易アンテナ（付属品）

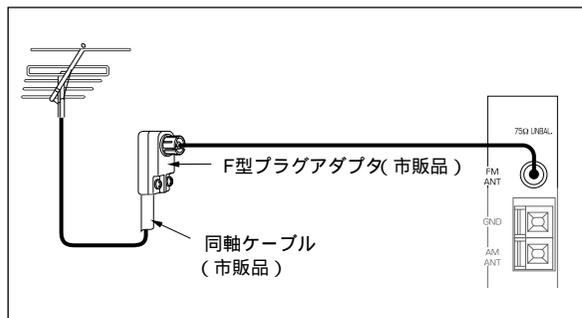


FM ANT端子にしっかりさし込んでください。FM簡易アンテナは、あくまで簡易的なものなので、より良い音質で受信するには市販のFM屋外アンテナの設置をおすすめします。

メモ

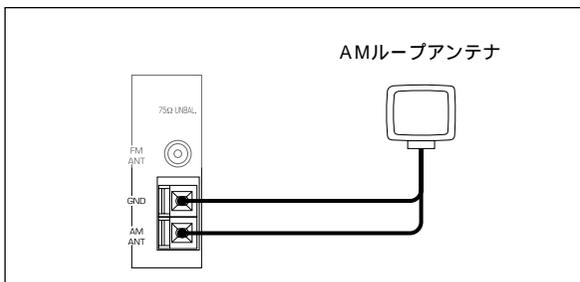
FM屋外アンテナと付属のFM簡易アンテナを同時に接続しないでください。

FM屋外アンテナ



ご使用になる地域の電波状況によってFM放送を良好に受信できないときは、販売店や専門のサービス業者にご相談の上、地域の状況にあったアンテナを接続してください。FM屋外アンテナは、自動車のノイズの影響を受けないよう、道路から離れたなるべく高いところに設置してください。

AMループアンテナ（付属品）

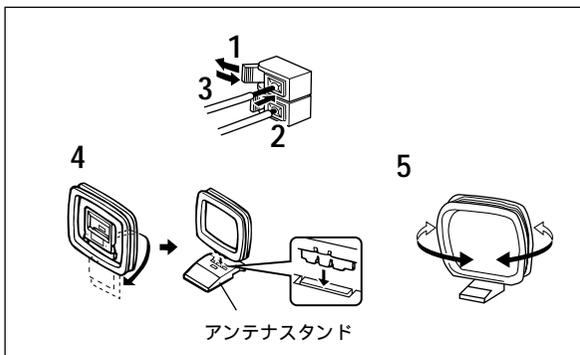


AMループアンテナは、アンテナスタンドをはずして壁にかけて使用することができます。壁が金属や鉄筋の場合、受信感度が悪くなることがありますのでご注意ください。

メモ

- AMループアンテナは本機から離して設置してください。
- 市販の屋外アンテナ(5～10mのビニール被覆線)をお使いのときも、AMループアンテナを必ず接続しておいてください。

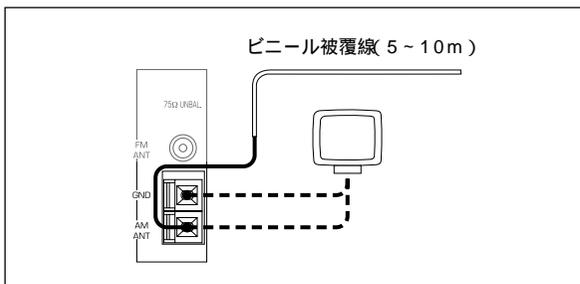
AMループアンテナの組立と接続



- 1 AM ANT端子とGND端子のレバーを倒します。
- 2 AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子にさし込みます。
- 3 レバーを戻してロックします。コードを軽く引いて、しっかり固定されているか確認してください。
- 4 アンテナスタンドにアンテナを取り付けます。
- 5 アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。

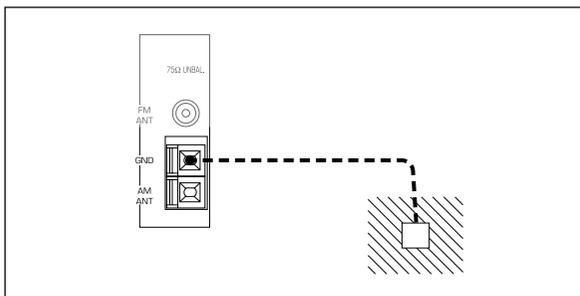
準備

AM屋外アンテナ



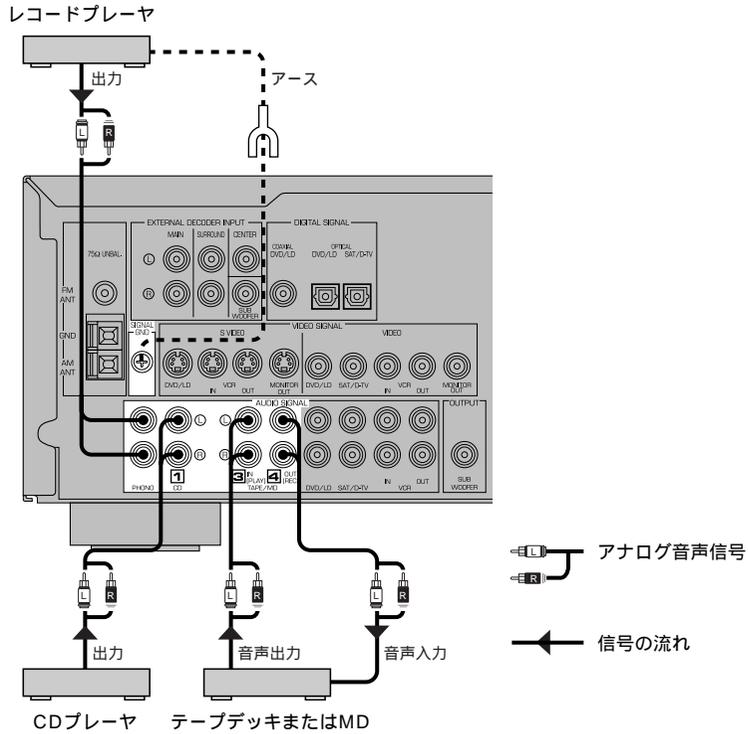
AMループアンテナで受信状態が良くない場合は、市販の屋外アンテナ(5～10mのビニール被覆線)を屋外に張ってください。

アースについて



雑音の防止と安全のために地中にアースを張ることをおすすめします。市販のアース棒が銅版に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

オーディオ機器の接続



右チャンネル(R) 左チャンネル(L) 入力(IN) 出力(OUT)を
確認して正しく接続してください。

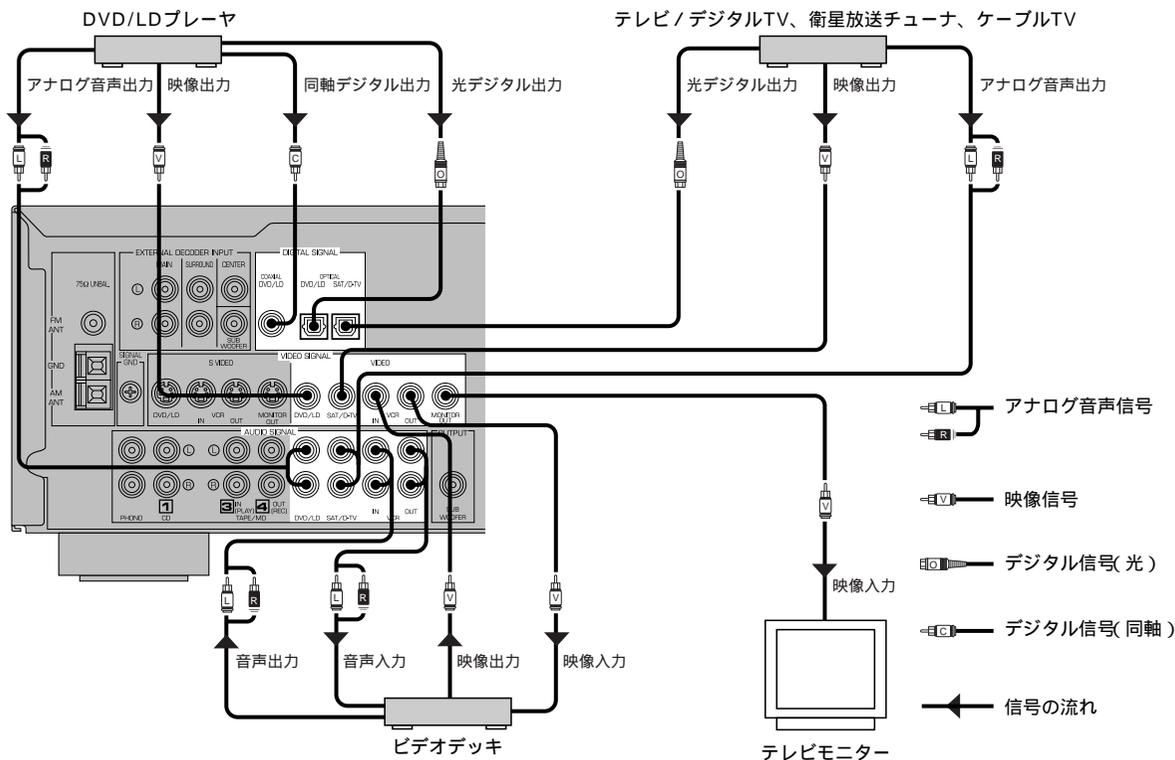
PHONO端子について

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ(2mV以上)付のレコードプレーヤを接続します。
低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤを接続するときは、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプが別途必要になります。



- 通常、レコードプレーヤをアース線でSIGNAL GND端子につなぐとノイズは減少しますが、まれにアース線を接続しない方がよい音質になることがあります。
- SIGNAL GND端子は、アナログプレーヤなどを接続した場合に生じる恐れのあるノイズの低減を図るためのものです。安全アースではありません。

ビデオ機器の接続



準備

音声信号の端子

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

映像信号の端子

入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

デジタル音声信号端子

お手持ちのDVD/LD、テレビなどにデジタル音声出力端子(同軸および光)があれば、本機のデジタル信号入力端子(COAXIAL[同軸]およびOPTICAL[光])に接続することができます。市販の光ファイバーケーブルを使って接続するときは、それぞれのOPTICAL(光)端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると正常に動作しないことがあります。

デジタル接続だけでなく、AUDIO SIGNAL端子(アナログ)も接続してください(テープデッキ、MD、ビデオデッキでは、デジタル信号を録音することができないため)。

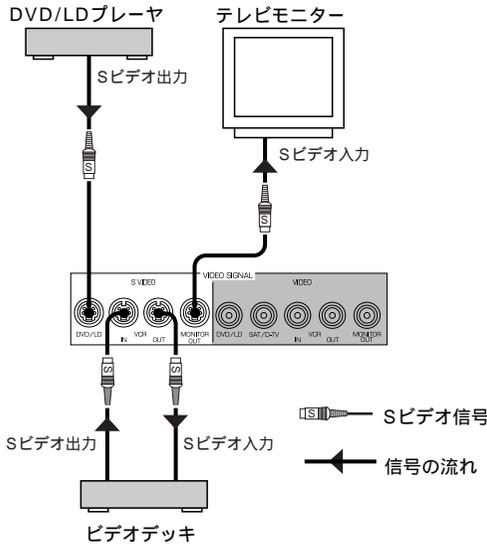
メモ

- OPTICAL端子をご使用にならないときは、必ずキャップを差し込んでください(ほこりなどの侵入を防ぎます)。
- お手持ちのLDにドルビーデジタル用RF信号出力端子があるときは、市販のRFデモモジュールをお使いください。
- お手持ちのLDのドルビーデジタル用RF信号出力端子に、本機のDVD/LD同軸デジタル入力端子を接続しても再生することはできません。



- DVD/LDデジタル入力端子から入力される信号は、入力モードでAUTOが選ばれているとき、以下の優先順位で選択されます。COAXIAL端子、OPTICAL端子、アナログ端子(入力モードについては20ページをご覧ください)。
- 本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送Aモードから、CDの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDの48kHzに対応しています。

S VIDEO端子の接続



お手持ちのビデオデッキ、テレビモニター、DVDまたはLDプレーヤなどに、S VIDEO端子がある場合は、本機のS VIDEO端子に接続することで、通常のビデオ信号(ピンジャックで接続されているコンポジット信号)より解像度が高く美しい映像が楽しめます。

ビデオデッキのSビデオ入/出力端子を、それぞれ本機のOUT/IN端子に接続してください。

テレビモニターのSビデオ入力端子を、本機のS VIDEO MONITOR OUT端子に接続してください。

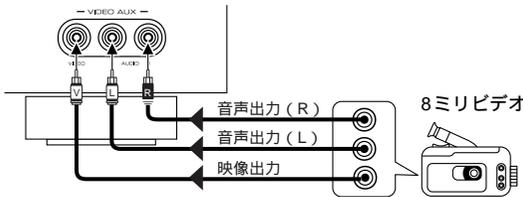
DVDまたはLDプレーヤのSビデオ出力端子を、本機のS VIDEO DVD/LD端子に接続してください。

メモ

- 市販のSビデオケーブルをお使いください。

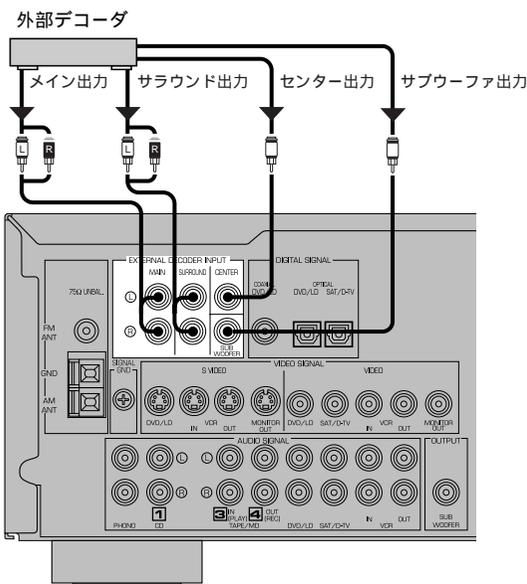
本機では、S VIDEO端子とピンジャックのVIDEO端子は独立しています。ピンジャックから入った信号はピンジャックに出力され、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に出力されます。

VIDEO AUX入力端子の接続 (フロントパネル)



8ミリビデオなどのビデオ機器を接続する予備入力端子です。

外部デコーダの接続



本機に外部デコーダを接続することができます。デコーダの6チャンネル音声信号出力端子を、本機のEXTERNAL DECODER INPUT端子に接続してください。

メモ

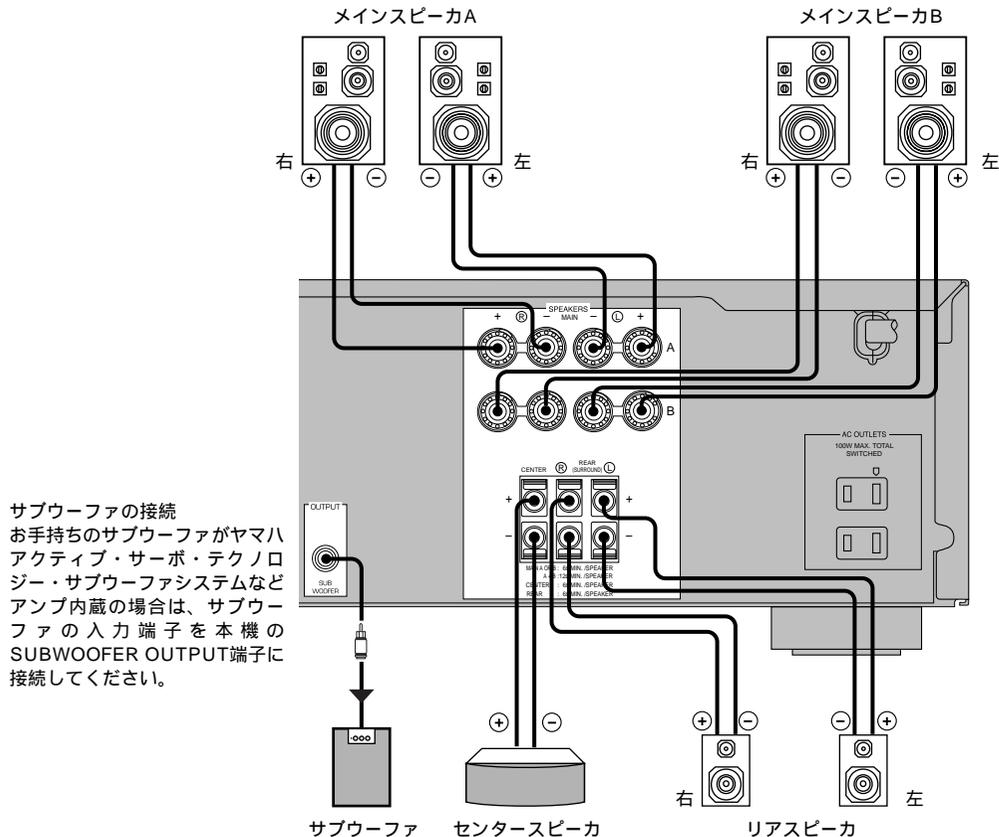
- これらの端子から入力される音声に音場効果をかけることはできません。
- セットメニューの“CENTER SP”、“REAR SP”、“MAIN SP”、“BASS OUT”の設定は、これらの端子から入力されるソースには影響しません。“MAIN LVL”のみ有効です。

ハイビジョンテレビやMUSEデコーダのディスクリット音声(3・1)も接続できます

ハイビジョンテレビ(デコーダ)の音声L、R出力およびセンター出力を本機のMAIN L、R INPUT端子およびCENTER INPUT端子に接続します。

サラウンド出力がステレオの場合は、市販のピンプラグケーブルを使って、本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。(サラウンド出力がモノラルの場合は、市販の1P 2P分岐ピンプラグケーブルを使って本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。)

スピーカの接続



サブウーファの接続

お手持ちのサブウーファがヤマハアクティブ・サーボ・テクノロジー・サブウーファシステムなどアンプ内蔵の場合は、サブウーファの入力端子を本機のSUBWOOFER OUTPUT端子に接続してください。

左チャンネル(L) 右チャンネル(R)や+(赤)/-(黒)を必ず確認して正しく接続してください。接続が正しくない場合は、スピーカから音が出されません。また、極性(+、-)を間違えて接続した場合、低音が欠け、不自然な再生音となることがあります。

ご注意

- 接続するスピーカのインピーダンスは6 以上のものを使用してください。メインスピーカA、Bを同時に使う場合は、インピーダンスが12 以上のスピーカを接続してください。それ以下のスピーカを使用すると故障の原因となります。
- スピーカコードの絶縁部をはがしたワイヤーをお互いに接触しないようにしてください。また本機の金属の部分にも接触させないようにしてください。本機およびスピーカの故障の原因となります。

メインスピーカ端子

メインスピーカは同時に2組まで接続できます。AまたはB、あるいはAB両方に接続してください。

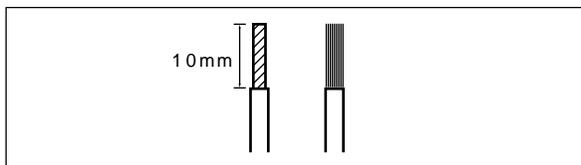
リアスピーカ端子

リアスピーカを接続してください。

センタースピーカ端子

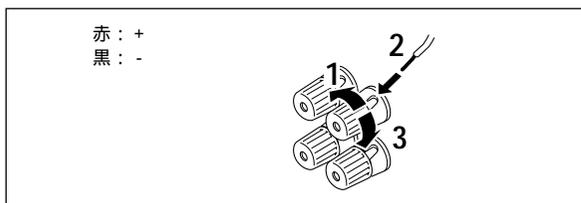
センタースピーカを接続してください。

スピーカコードの処理

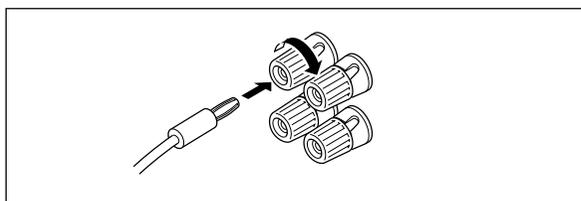


- 1** コードの先端の絶縁部を10mm程はがします。
- 2** ワイヤーをしっかりとねじります。バラけているとショートしやすいのでご注意ください。

メインスピーカ端子の接続

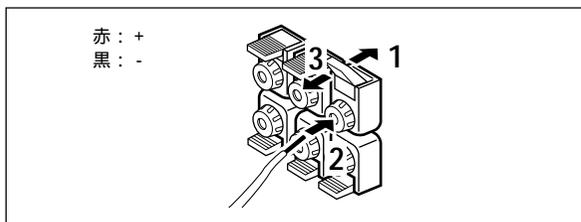


- 1** スピーカ端子を左に回してゆるめます。
- 2** スピーカコードを端子の穴に差し込みます。
- 3** スピーカ端子を右に回し、しっかりと締めます。



市販のバナナプラグを使用する場合は端子を強く締めてから差し込んでください。

リア、センタースピーカ端子の接続



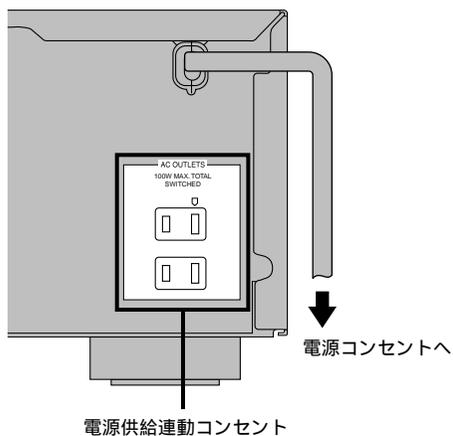
- 1** タブを開けます。
- 2** スピーカコードを端子の穴にさし込みます。
- 3** タブをもとに戻してコードを固定します。

電源プラグ、電源供給コンセントの接続

全ての接続が終わったら、電源プラグをコンセントに差しこんでください。長期間本機をお使いにならない場合は電源プラグを抜いておいてください。

SWITCHED AC OUTLETS (電源供給連動コンセント)

お手持ちのオーディオ機器を接続することができます。本機のSTANDBY/ON (POWER)スイッチと連動しており、スタンバイモードでは接続した機器の電源が切れ、オンのときは2つのコンセントに合計100Wまでの電源を供給します。

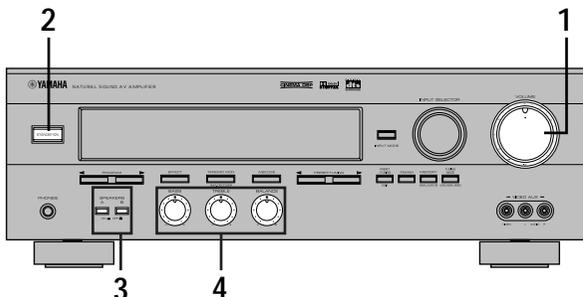




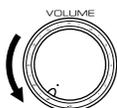
スピーカレベルの調節

テストトーンを聞きながら、メイン、センター、リアの各スピーカの音量レベルを調節します。内蔵のヤマハデジタルサウンドフィールドプロセッサ、ドルビーデジタルデコーダ、ドルビープロロジックデコーダ、DTSデコーダによる音場を効果的に再生するために、各スピーカの音が実際の視聴位置から同じ大きさに聞こえるようにしてください。

調節の前に



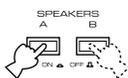
1 VOLUMEつまみを∞に合わせる。



2 電源をオンにする。



3 SPEAKERS A/Bスイッチでメインスピーカを選ぶ。

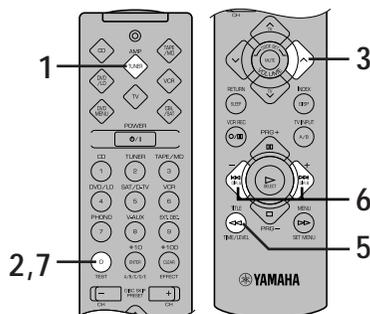


4 トーンコントロール(BASS、TREBLE)と、BALANCEつまみを「0」の位置にあわせる。



テストトーンを使う

リモコンを使って、実際の視聴位置からテストトーンを聴きながら調節してください。



1 AMP(TUNER)モードキーを押す。

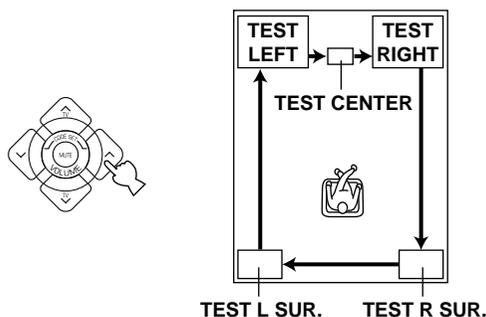


2 TESTキーを押す。
ディスプレイに「TEST LEFT」が表示されます。



TEST LEFT

3 VOLUME(∧/∨)キーでテストトーンを通常お聴きになる音量まで上げる。
テストトーンは、メイン(左) センター、メイン(右) リア(右) リア(左)の順で聞こえます。
表示はテストトーンを出すスピーカに合わせて下図のように変わります。



メモ

- テストトーンが聞こえないときは、いったん音量を下げ、本機をスタンバイ状態にしてからスピーカが正しく接続されているか確認してください。
- センタースピーカのテストトーンが聞こえないときは、セットメニューの「CENTER SP(センタースピーカ)」の設定を確認してください。

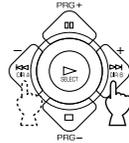
- 4** フロントパネルのBALANCEつまみで左右メインスピーカの音量レベルが同じになるよう調節してください。



- 5** TIME/LEVELキーを押して調節したいスピーカを選ぶ。センターは“CENTER”、リア(右)は“R SUR.”、リア(左)は“L SUR.”と表示されます。



- 6** +/-キーを使って、選んでいるスピーカがメインスピーカと同じ音量になるように調節する。音量調節中は、現在選択されているスピーカからテストトーンが聞こえます。



メモ

- テストトーンが出ているときは、ディスプレイに“DELAY”と表示されてもディレイタイムの調節はできません。

- 7** 手順5～6をくり返してセンター、リア右およびリア左スピーカの音量を調節する。

- 8** 調節が終わったら、TESTキーを押す。ディスプレイに“TEST OFF”と表示され、テストトーンが消えます。



TEST OFF

メモ

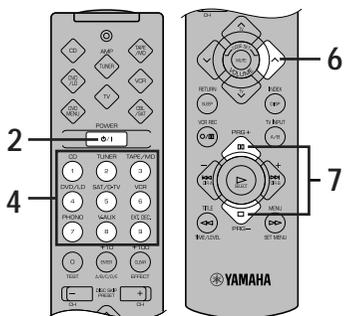
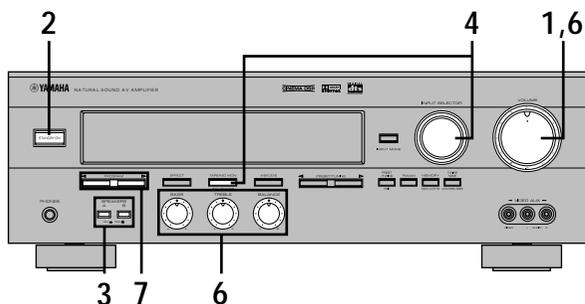
- セットメニューの“CENTER SP(センタースピーカ)”が“NONE”になっているときは、手順6でセンタースピーカの調節はできません。センターチャンネルの音は左右メインスピーカから出力されます。



- スピーカーレベルを一度調節すれば、スピーカを変えたりしないかぎり再度調節する必要はありません。実際に視聴するときは、全体の音量をVOLUMEキーで調節するだけでお楽しみいただけます。
- センターやリアスピーカの音を最大にしても、メインスピーカと同じにならないときは、セットメニューの“MAIN LEVEL(メインレベル)”を“-10dB”に設定してから(33ページ)、もう一度調節してください。

再生する

リモコンで操作する場合はAMP(TUNER)モードキーを押してください。



1 VOLUMEつまみを∞に合わせる。



2 電源をオンにする。



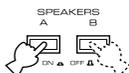
フロントパネル

または



リモコン

3 SPEAKERS A/Bスイッチでメインスピーカを選ぶ。



フロントパネル

4 インプットセクタで再生するソースを選ぶ。
ディスプレイに選択されたソース名が数秒間表示された後、そのソースの入力ソースインジケータの矢印が点灯します。



入力ソース

テープまたはMDを選ぶには TAPE/MD EXT. DECODER(またはリモコンのTAPE/MD)キーを押します。ディスプレイのTAPE/MD MONITORインジケータが点灯します。



フロントパネル

外部デコーダからの入力を選ぶには ディスプレイに「EXT. DECODER」が表示されるまで、TAPE/MD EXT. DECODER(またはリモコンのEXT. DEC)キーを繰り返し押します。

メモ

- ディスプレイのTAPE/MD MONITORインジケータが点灯していたり、「EXT. DECODER」が表示されていると、他のオーディオ系のソースは再生できません。また、ビデオソースの映像は再生できますが、音声はTAPE/MD EXT. DECODER(またはリモコンのTAPE/MDまたはEXT. DEC)キーで選択されたソースのものが再生されます。
- TAPE/MD MONITORインジケータを消すには、TAPE/MD EXT. DECODERキーを2回(またはリモコンのTAPE/MDキーを1回)押してください。「EXT. DECODER」表示を消すには、TAPE/MD EXT. DECODER(またはリモコンのEXT. DEC)キーを1回を押してください。



DVD/LDまたはSAT/D-TV(テレビ、衛星放送チューナーまたはデジタル放送チューナー)を選択しているときには現在選ばれている入力モード(20ページ)も表示されます。

一時的に音を消す（ - dBにする）には

リモコンのMUTEキーを押す。
ミュートを解除するにはもう一度MUTEキーを押します。



メモ

- ミュート中は、ディスプレイに「MUTE ON」と表示されます。

本機を使い終わったら

STANDBY/ONスイッチ(またはリモコンのPOWERキー)を押して本機をスタンバイ状態にしてください。

BGV（バックグラウンドビデオ）機能

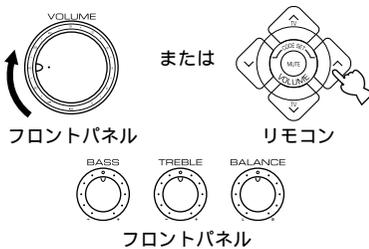
リモコン操作で、ビデオ系ソースの映像とオーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむことができます。ビデオ系ソースを再生中に、リモコンのインプットセクタでオーディオ系ソースを選択し再生すると、映像はそのまま残るのでBGV(バックグラウンドビデオ)として楽しむことができます。オーディオ系ソースを選ぶときに本体のインプットセクタを回して選ぶと、BGVにはなりません。

- 5** ソースの再生を始める。
再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

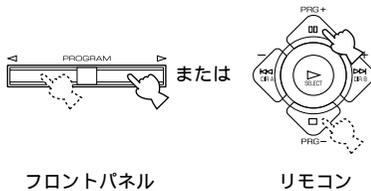
メモ

- 本機のリモコンでオーディオ/ビデオ機器(テープデッキやMDプレーヤ、CDプレーヤ、DVD/LDプレーヤなど)を操作する場合は、操作したい機器に対応するモードキー(TAPE/MD、CD、DVD/LDなど)を押してください。43ページの「コードをリモコンにセットする」をご覧ください。

- 6** VOLUMEで音量を調節する。
必要に応じてBASS、TREBLE、BALANCEも調節してください。これらの調節はメインスピーカから出力される音のみに有効です。
- BASSつまみは低音を調節します。
 - TREBLEつまみは高音を調節します。
 - BALANCEつまみは左右メインスピーカの音量バランスを調節します。



- 7** 音場プログラムを選ぶ。
詳しくは22ページをご覧ください。



入力モードについて(DVD/LD またはSAT/D-TV選択時)

本機では、アナログ、デジタル両方の接続がされている機器の入力モードを切り換えることができます。本機をオンにしたとき、DVD/LD入力時の入力モードはAUTOに、SAT/D-TV入力時はセットメニューの“SAT INPUT”で設定されているモード(34ページ)になりますが、AUTO、ANALOG、DTSの3種類の入力モードから選ぶことができます。

AUTO

このモードでは次の優先順位で入力信号を選びます。

1. ドルビーデジタルまたはDTSのデジタル信号
2. 通常(PCM)のデジタル信号
3. アナログ信号

メモ

- OPTICAL端子とCOAXIAL端子に同時にデジタル信号が入ると、COAXIAL端子からのデジタル信号を優先して入力します。

DTS

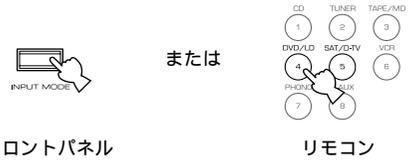
DTS信号入力に固定。

ANALOG

アナログ信号入力に固定。デジタル信号を含むソフトであっても、アナログ信号で入力したいときにこのモードを選んでください。

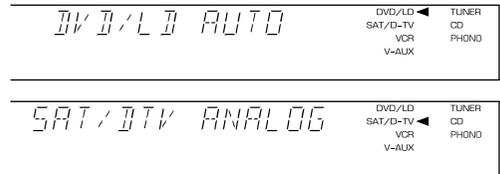
入力モードを切り換えるには

INPUT MODEキー(または、現在選んでいるソースのインプットモードセレクタ)を、選びたい入力モードがディスプレイに表示されるまでくり返し押します。



フロントパネル

リモコン



メモ

- ドルビーデジタルのDVDまたはLDソースを再生するときは、入力モードをAUTOにしてください。
- 通常の2チャンネルドルビーサラウンドのソースを再生するときは、入力モードをANALOGにしてください。
- LDやDVDを再生するとき、以下のような場合では再生がとぎれることがあります。
入力モードがAUTOのとき：
ドルビーデジタルかDTSソースの再生中にサーチをして、もう一度通常の再生に戻すと、デジタルの入力信号にもう一度切り換わる瞬間にとぎれます。
- CD、TUNER、TAPE/MD、VCR、PHONO、VIDEO AUXを入力ソースに選んでいるときはアナログ信号が使われるため、入力モードを選ぶことはできません。
- DVD/LD、テレビ、デジタル放送、衛星放送チューナー入力時に入力モードを変えると、選ばれた入力モードがディスプレイに表示されます。

DTSソースに関するご注意

- DTSでエンコードされたLDの再生中に「DATA ERROR」と表示されたら、再生をやめ、プレーヤの電源を入れ直してください。
- プレーヤから出力されるDTS信号に何らかの処理がされている場合、本機とデジタル接続されていても再生できないことがあります。入力モードを「ANALOG」にしてDTS対応のLDの再生すると、内蔵のDTSデコーダで処理されていないDTS信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。DTSソースを再生するときは、必ずデジタル入力端子に接続し、「AUTO」または「DTS」に設定してください。
- 入力モードを「AUTO」にしてDTS対応のLDを再生すると、最初に本機がDTS信号を識別してDTSデコーダが作動するまでの少しの間、ノイズが発生します。故障ではありませんがこれを避けるためには入力モードを「DTS」にしてください。また「AUTO」の設定でDTS対応のLDを再生し続けると、本機は自動的に「DTS固定」となり、その後のノイズ発生を防ぎます(ディスプレイの **dts** インジケータが点灯します)。この状態で通常のPCMのLDを再生しても音がでません(**dts** インジケータが点滅します)。この状態から通常のPCMのディスクを再生するには入力モードを再度「AUTO」にしてください。

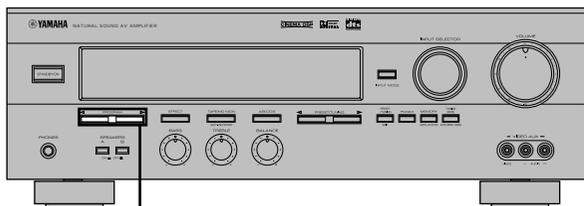
LD再生の際のご注意

- LDなどの再生機器によっては、アナログとデジタルで異なる信号を出力する場合があります。必要に応じてモードを切り換えてください。
- 「AUTO」モードにすると、本機はLDにどのような信号が含まれているかを識別します。ドルビーデジタルまたはDTS信号を検出すると、自動的にデコーダが作動し、5.1チャンネル音声の再生が楽しめます。
- LDからの信号が正常でないとき、本機はドルビーデジタルまたはDTS信号を検出できないことがあります。このような場合、デコーダは自動的にPCMかアナログに切り換わります。
- LDにデジタル音声が含まれていないときは、プレーヤと本機のアナログ端子どうしを接続し、入力モードを「AUTO」または「ANALOG」にしてください。
- LDのドルビーデジタル音声再生中に、ポーズまたはチャプター送りなどから通常の再生にもどると、ドルビーデジタルの音声に切り換わる前に、一瞬PCMまたはアナログの音声再生されます。

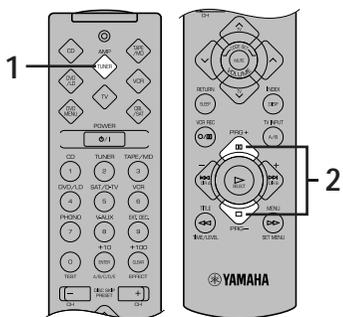
音場効果を楽しむ

音場プログラムの選びかた

音場プログラムを選ぶことでより豊かな迫力と臨場感をお楽しみいただけます。各プログラムの詳細については23～25ページをご覧ください。

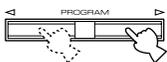


PROGRAM ◀▶



本体で操作するには

PROGRAM◀▶キーでお好みの音場プログラムを選ぶ。選択された音場プログラム名が表示されます。



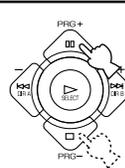
音場プログラム名

リモコンで操作するには

1 リモコンのAMP (TUNER)モードキーを押す。



2 PRG+またはPRG-キーでお好みの音場プログラムを選ぶ。選択された音場プログラム名が表示されます。



音場プログラム名



必要に応じて各スピーカのディレイタイムと出力レベルを調節できます。35ページをご覧ください。

メモ

- 各入力ソースごとに音場プログラムを選べます。プログラムを選ぶと、そのときの入力ソースにプログラムがリンクされているので、次にその入力ソースを再生するときには同じプログラムが選ばれます。
- モノラルのソフトをPROLOGICまたはPROLOGIC ENHANCEDで再生すると左右のメインスピーカおよびリアスピーカからは音が出されず、センタースピーカから出力されます。ただし、セットメニューの「CENTER SP(センタースピーカ)」で「NONE」が設定されていると、センターの音が左右のメインスピーカから出力されます。
- EXTERNAL DECODER INPUT端子から入力される音声には音場効果をかけることができません。

音場効果のオン/オフ

EFFECTキーを押すたびに音場効果のオン/オフができます。



フロントパネルまたは



リモコン

メモ

- 音場効果をオフにすると、各スピーカの音はすべてメインスピーカから出力されます。
- ドルビーデジタルまたはDTSのソースによっては、再生中に音場効果をオフにすると音が小さくなったり、正常に再生されないことがあります。そのような場合は音場効果をオンにしてください。



音場プログラムについて

本機は、ドルビーデジタル、ドルビーサラウンド、DTSのサウンドを忠実に再生するドルビー/DTSサラウンド音場や、より幅広い表現力を持つシネマDSP(51ページ)に加え、世界各国の著名な演奏会場での実測データをもとに作成されたHiFi-DSPを内蔵しています。再生するときに音場を呼び出し、その臨場感と効果をお楽しみ下さい。

シネマDSPのプログラムを選択すると、本機は入力したソースの信号を識別し、適応する内蔵のデコーダ(ドルビープロロジック、ドルビーデジタル、DTS)が動作します。

それぞれの音場プログラムについては、以下の表をご覧ください。実測データを採用しているため、各スピーカから出力される音のバランスが異なることがあります。

映画など、AVソースに(プログラムNo. 1~5:シネマDSPプログラム)

No.	プログラム名	サブプログラム名	プログラムの特長
1	■■■/DTS SURROUND	[1]PRO LOGIC/Normal(<input checked="" type="checkbox"/> PRO LOGIC) <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース: ドルビーサラウンド 2チャンネルドルビーデジタル 出力チャンネル: 4チャンネル DSP: - 	ドルビープロロジック/ドルビーデジタルデコーダまたはDTSデコーダで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。
		[2]DOLBY DIGITAL/Normal(<input checked="" type="checkbox"/> DIGITAL) <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース: ドルビーデジタル 出力チャンネル: 5.1チャンネル DSP: - 	
		[3]DTS DIGITAL SUR/Normal(dts) <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース: DTS 出力チャンネル: 5.1チャンネル DSP: - 	
		[4]PRO LOGIC/ENHANCED (<input checked="" type="checkbox"/> PRO LOGIC <input type="checkbox"/> DSP) <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース: ドルビーサラウンド 2チャンネルドルビーデジタル 出力チャンネル: 4チャンネル DSP: 1音場(サラウンド) 	ドルビーサラウンドまたはDTSサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。
		[5]DOLBY DIGITAL/ENHANCED (<input checked="" type="checkbox"/> DIGITAL <input type="checkbox"/> DSP) <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース: ドルビーデジタル 出力チャンネル: 5.1チャンネル DSP: 2音場(サラウンドL、R) 	
		[6]DTS DIGITAL SUR/ENHANCED (dts <input type="checkbox"/> DSP) <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース: DTS 出力チャンネル: 5.1チャンネル DSP: 2音場(サラウンドL、R) 	

No.	プログラム名	サブプログラム名	プログラムの特長
2	MOVIE THEATER 1	[1] 70 mm SPECTACLE (<input checked="" type="checkbox"/> PRO LOGIC) (<input type="checkbox"/> DSP)	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生みだします。70mm映画初期の作品から最新のドルビーソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		• 入力ソース：ドルビーサラウンド 2チャンネルドルビーデジタル	
		• 出力チャンネル：3チャンネル	
		• DSP：2音場 (プレゼンス/サラウンド)	
		[2] DGTL SPECTACLE (<input checked="" type="checkbox"/> DIGITAL) (<input type="checkbox"/> DSP)	
		• 入力ソース：ドルビーデジタル 出力チャンネル：5.1チャンネル DSP：3音場 (プレゼンス/サラウンドL、R)	
[3] DTS SPECTACLE (<input checked="" type="checkbox"/> DTS) (<input type="checkbox"/> DSP)	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、Science Fictionの世界を仮想空間音場で楽しめます。		
• 入力ソース：DTS 出力チャンネル：5.1チャンネル DSP：3音場 (プレゼンス/サラウンドL、R)			
[4] 70 mm SCI-FI (<input checked="" type="checkbox"/> PRO LOGIC) (<input type="checkbox"/> DSP)			
• 入力ソース：ドルビーサラウンド 2チャンネルドルビーデジタル			
• 出力チャンネル：3チャンネル			
• DSP：2音場 (プレゼンス/サラウンド)			
[5] DGTL SCI-FI (<input checked="" type="checkbox"/> DIGITAL) (<input type="checkbox"/> DSP)	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm / ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現すると共に音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデットにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場にオペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きと共にアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。		
• 入力ソース：ドルビーデジタル 出力チャンネル：5.1チャンネル DSP：3音場 (プレゼンス/サラウンドL、R)			
[6] DTS SCI-FI (<input checked="" type="checkbox"/> DTS) (<input type="checkbox"/> DSP)			
• 入力ソース：DTS 出力チャンネル：5.1チャンネル DSP：3音場 (プレゼンス/サラウンドL、R)			
[1] 70 mm ADVENTURE (<input checked="" type="checkbox"/> PRO LOGIC) (<input type="checkbox"/> DSP)		70mm / ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。	
• 入力ソース：ドルビーサラウンド 2チャンネルドルビーデジタル			
• 出力チャンネル：3チャンネル			
• DSP：2音場 (プレゼンス/サラウンド)			
[2] DGTL ADVENTURE (<input checked="" type="checkbox"/> DIGITAL) (<input type="checkbox"/> DSP)			
• 入力ソース：ドルビーデジタル 出力チャンネル：5.1チャンネル DSP：3音場 (プレゼンス/サラウンドL、R)			
[3] DTS ADVENTURE (<input checked="" type="checkbox"/> DTS) (<input type="checkbox"/> DSP)	70mm / ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。		
• 入力ソース：DTS 出力チャンネル：5.1チャンネル DSP：3音場 (プレゼンス/サラウンドL、R)			
[4] 70 mm GENERAL (<input checked="" type="checkbox"/> PRO LOGIC) (<input type="checkbox"/> DSP)			
• 入力ソース：ドルビーサラウンド 2チャンネルドルビーデジタル			
• 出力チャンネル：3チャンネル			
• DSP：2音場 (プレゼンス/サラウンド)			
[5] DGTL GENERAL (<input checked="" type="checkbox"/> DIGITAL) (<input type="checkbox"/> DSP)	70mm / ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。		
• 入力ソース：ドルビーデジタル 出力チャンネル：5.1チャンネル DSP：3音場 (プレゼンス/サラウンドL、R)			
[6] DTS GENERAL (<input checked="" type="checkbox"/> DTS) (<input type="checkbox"/> DSP)			
• 入力ソース：DTS 出力チャンネル：5.1チャンネル DSP：3音場 (プレゼンス/サラウンドL、R)			

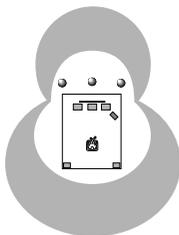
No.	プログラム名	プログラムの特長
4	MONO MOVIE <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース：モノラル 出力チャンネル：1チャンネル DSP：1音場 	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声は臨場感を持って再生されます。
5	TV SPORTS <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース：オーディオ/ビデオ 出力チャンネル：2～5.1チャンネル DSP：2～3音場 (プレゼンス/サラウンド) 	様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

HiFiオーディオソースに

No.	プログラム名	プログラムの特長
6	DISCO <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース：2チャンネルPCM / アナログ音声 出力チャンネル：2チャンネル DSP：1音場 	ディスコミュージックに含まれる乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
7	ROCK CONCERT <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース：2チャンネルPCM / アナログ音声 出力チャンネル：2チャンネル DSP：1音場 	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席数は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
8	CONCERT HALL <ul style="list-style-type: none"> 入力ソース：2チャンネルPCM / アナログ音声 出力チャンネル：2チャンネル DSP：1音場 	ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。

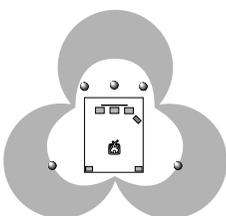
シネマDSP：ドルビーサラウンド+DSP/ドルビーデジタル+DSP/DTS+DSP

ドルビープロロジック + 2音場



ドルビープロロジックでデコードされたサウンドのフロント側にプレゼンス音場処理を行うとともに、サラウンドチャンネルは視聴者の周囲を包み込むような包囲音場に変換して出力します。音の響きに空間の広がりや付加し、サラウンド効果を強調するので、映画館におけるドルビーステレオ再生のような効果が得られます。

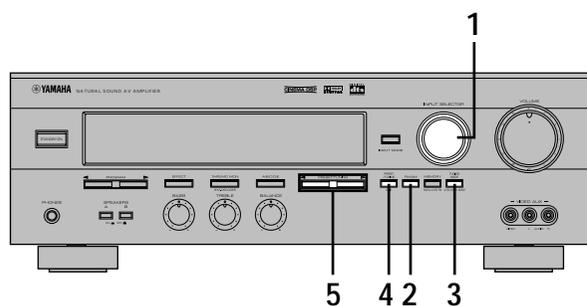
ドルビーデジタルまたはDTS + 3音場



ドルビーデジタルまたはDTSでデコードされたサウンドに、フロント側のプレゼンス音場と、左右独立したサラウンド音場を付加します。高いチャンネルセパレーション、音源の移動感を維持しながら音の奥行きを豊かに拡大し、力強いサラウンド効果を再現します。ドルビーデジタル、DTSの幅広いダイナミックレンジと、音場効果のコンビネーションが、ドルビーデジタルやDTSを採用した最新の映画館さながらの視聴体験を可能にします。

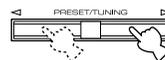
FM/AM放送を聴く

受信状態が良い場合はオート選局が速くて便利ですが、放送局の電波が弱い場合は、マニュアル選局してください。



5 高い周波数の放送局を探すときは、PRESET/TUNING ▶ キーを、低い周波数の放送局を探すときは ◀ キーを一度押す。

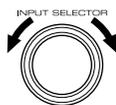
受信した放送局が希望の局ではないときは、もう一度 PRESET/TUNING ◀/▶ キーを押してください。



- 電波が弱いため希望の局で止まらないときは、マニュアル選局してください。
- 放送局を受信すると、ディスプレイに周波数が表示されます。

オート選局

1 インプットセクターでTUNERを入力ソースに選ぶ。



2 FM/AMキーを押してバンド(FMまたはAM)を選ぶ。



3 TUNING MODEキーを押して、ディスプレイのAUTOインジケータを点灯させる。

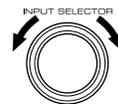


4 PRESET/TUNING EDITキーを押して、“>”表示を消す。



マニュアル選局

1 インプットセクターでTUNERを入力ソースに選ぶ。



2 FM/AMキーを押してバンド(FMまたはAM)を選ぶ。



3 TUNING MODEキーを押して、ディスプレイのAUTOインジケータを消す。



4 PRESET/TUNING EDITキーを押して、“>”表示を消す。



5 高い周波数の放送局を探すときは、PRESET/TUNING ▶ キーを、低い周波数の放送局を探すときは ◀ キーを希望の局の周波数が表示されるまで押し続ける。

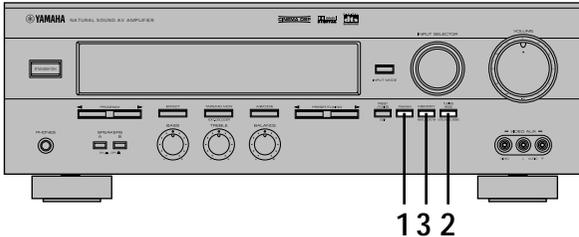


メモ

- FM放送局をマニュアル選局すると、受信状態を良好にするためにモノラルになります。

放送局のオートプリセット (FM放送局のみ)

オートプリセット機能を使うと、電波の強いFM放送局を40局(8局×5グループ)まで自動的にプリセットすることができます。



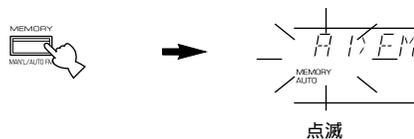
1 FM/AMキーを押してFMを選ぶ。



2 TUNING MODEキーを押して、ディスプレイのAUTOインジケータを点灯させる。



3 MEMORYキーを約3秒間押しつづける。
プリセット番号、MEMORYとAUTOインジケータが点滅します。約5秒後、現在表示されている周波数から高い方へオートプリセットが開始します。「A1」、「A2」、...から「E5」まで放送局をプリセットします。



メモリーバックアップについて

本機がスタンバイモードになっても、セットした内容は消えずに記憶(メモリー)されます。ただし、1週間以上電源コードが電源コンセントからはずれていたり、電気が供給されなかった場合には、メモリーが消えます。その場合はもう一度セットしなおしてください。

オートプリセット時のオプション

プリセットを始めるときの番号を指定したり(操作A)、低い周波数に向かって選局する(操作B)ことができます。オートプリセットが開始される前(手順3でMEMORYを押した後)に、次の操作を行ってください。

- [A] A/B/C/D/EキーとPRESET TUNINGキーでプリセットする最初の番号を選びます。オートプリセットは「E8」で止まります。
- [B] PRESET/TUNING EDITキーを押して、「>」表示を消してから、PRESET TUNING ◀キーを押すと低い周波数に向かって選局が始まります。

オートプリセットが完了すると

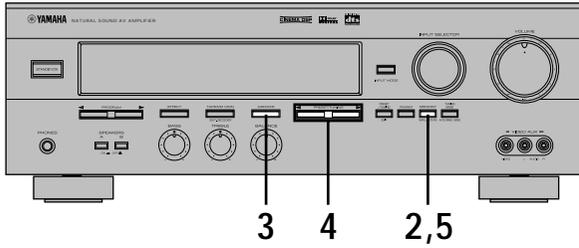
最後にプリセットされた放送局の周波数が表示されます。28ページ「プリセット局の選びかた」の手順に従って、プリセット番号と内容をチェックしてください。

メモ

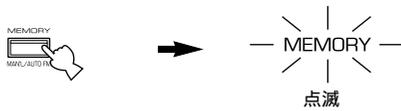
- すでに放送局が入っているプリセット局番に新しい放送局(FMまたはAM)をマニュアルで入れることができます。28ページの「放送局のマニュアルプリセット」をご覧ください。
- 周波数全域のサーチが終わると、プリセット局が「E8」まですべて入らない場合でも、オートプリセットは終了します。
- 希望の放送局の電波が弱くオートプリセットができない場合は、まずマニュアル選局で受信し(モノラル)、28ページの「放送局のマニュアルプリセット」を行ってください。

放送局のマニュアルプリセット

40局(5グループ×8局)まで放送局をマニュアルでプリセットできます。



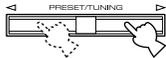
- 1 プリセットしたい放送局を選ぶ(26ページ)。
- 2 MEMORYキーを押す。



- 3 MEMORYインジケータが点滅している間(約5秒間)に、A/B/C/D/Eキーで希望のプリセットグループ(A~E)を選ぶ。
“>”表示が点灯しているか確認してください。選ばれたグループが表示されます。



- 4 MEMORYインジケータが点滅している間に、PRESET TUNING ◀/▶ キーで局番(1~8)を選ぶ。
局番を進めるときは、PRESET/TUNING ▶ キーを、局番を戻すときは ◀ キーを押します。



- 5 MEMORYインジケータが点滅している間に、MEMORYキーを押す。
選択されたプリセット局番に、表示されている周波数の放送局がセットされます。



- 6 他の放送局を続けてプリセットするときには、手順1~5のを繰り返す。

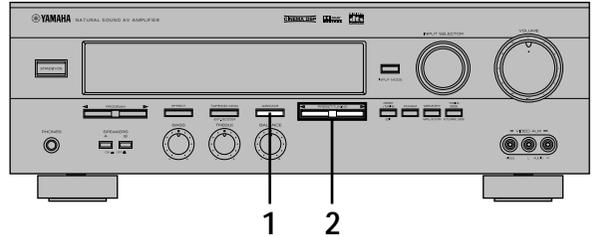
メモ

- すでに放送局が入っているプリセット局番にも新しい放送局を入れることができます。前にプリセットされていた放送局は消えます。
- 受信モード(ステレオかモノラル)も周波数と同時にセットされます。

プリセット局の選びかた

プリセット局番を選ぶだけで、希望の放送局を選局できます。

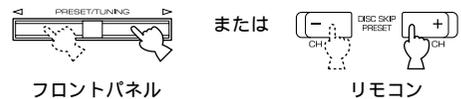
リモコンでも選局することができます。AMP(TUNER)モードキーを押し、インプットセクタでTUNERを選んでから操作してください。



- 1 A/B/C/D/Eキーでプリセット局のグループを選ぶ。
“>”表示が点灯していることを確認してください。



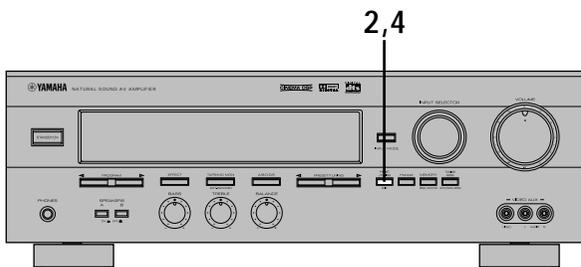
- 2 PRESET TUNING ◀/▶ キーで局番(1~8)を選ぶ。
プリセット局番と周波数、受信モードなどが表示されます。



プリセット局の入れ換え

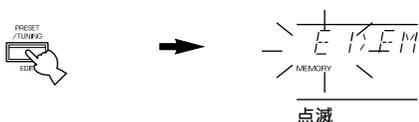
プリセットした放送局を入れ換えることができます。

例) 「E1」と「A5」を入れ換える。

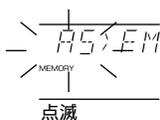


1 「E1」を選局する。
「プリセット局の選びかた」(28ページ)をご覧ください。

2 PRESET TUNING EDITキーを約3秒間押す。
「E1」とMEMORYインジケータが点滅します。



3 「A5」を選局する。
「プリセット局の選びかた」(28ページ)をご覧ください
(選局は必ず本体で操作してください)。
「A5」とMEMORYインジケータ
が点滅します。



4 PRESET TUNING EDITキーを押す。
下記のように表示され、プリセット局の入れ換えが完了
します。

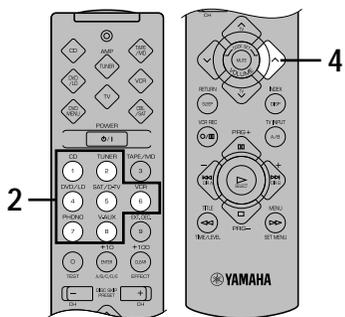
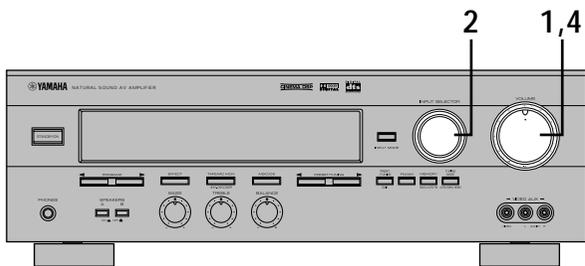


録音/録画する

本機は、再生中のソースの音声/映像信号をそのまま音声/映像出力端子に出力しますので、録音レベルの調節など、録音/録画のための操作を本機で行うことはありません。テープデッキ、MDレコーダ、ビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。



テープデッキまたはMDレコーダが録音機器に使われている場合は、TAPE/MD MON/EXT.DECODER(またはリモコンのTAPE/MD)キーを押すと、録音している音を確認できます。

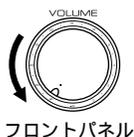


メモ

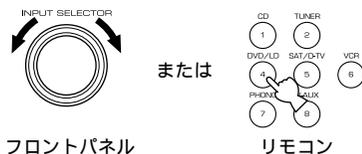
- 音場効果、BASS、TREBLEおよびBALANCEの設定は録音に影響しません。
- 通常のビデオ信号(コンポジット)とSビデオ信号は本機内で別々の回路を通ります。映像信号の録画時に、映像ソースをSビデオ(またはコンポジット)のみ接続している場合は、ビデオテープに録画されるのはSビデオ信号(コンポジットのビデオ信号)のみとなります。
- 本機とデジタル端子だけで接続されているソースは録音できません。
- EXTERNAL DECODER INPUT端子に接続されているソースは録音できません。
- 録音/録画されたものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

コピーガードのかかっているビデオソースを再生するときは、コピーガードの信号によって画像が乱れることがあります。

1 VOLUMEつまみを ∞ にあわせる。

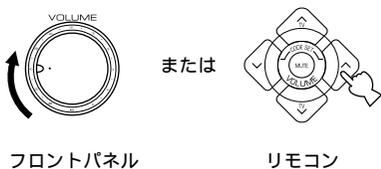


2 インプットセレクターで録音/録画するソースを選ぶ。



3 テープデッキ、MDレコーダ、ビデオデッキなどで録音/録画を始める。

4 ソースの再生を開始し、音量を上げて入力ソースを確認する。





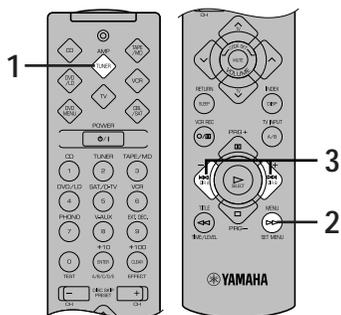
セットメニュー

本機には以下の11項目のセットメニューがあり、これらの項目をお手持ちのシステムに合わせてセットすることで、最適なオーディオ/ビデオ再生をお楽しみいただけます。

1. CENTER SP
2. REAR SP
3. MAIN SP
4. BASS OUT
5. MAIN LVL
6. D. D. LFE
7. D-RANGE
8. DTS LFE
9. CNTR DELAY
10. MEM. GUARD
11. SAT INPUT

セットメニューの設定

ディスプレイを見ながらリモコンで設定してください。



- 1** AMP (TUNER)モードキーを押す。

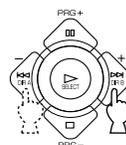


- 2** SET MENUキーを何回か押して設定したい項目を選ぶ。キーを押すたびに選択された項目が表示されます。



CENTER SP>LRG

- 3** - / + キーを押して設定する。



CENTER SP>SML

- 4** 他のメニュー項目についても、手順2と3を繰り返して設定する。

メモリーバックアップについて

本機がスタンバイモードになっても、セットした内容は消えずに記憶(メモリー)されます。ただし、1週間以上電源コードが電源コンセントからはずれていた、電気が供給されなかった場合には、メモリーが消えます。その場合はもう一度セットしなおしてください。

各メニュー項目の設定内容

1. CETNER SP (センタースピーカ)

選択範囲: LRG/SML/NONE
初期設定: LR(Large)

CENTER SP>LRG

LR(Large)

大型のセンタースピーカ(メインスピーカと同じ位のサイズ)を使用するときは、この設定にします。センターチャンネルの信号は全てセンタースピーカに出力されます。

SML(Small)

小型のセンタースピーカを使用するときは、この設定にします。センターチャンネル信号のうち低音域(90Hz以下)は、「BASS OUT」の設定によってSUBWOOFER OUTPUT端子またはメインスピーカに出力されます。

NONE(None)

センタースピーカを使用しないときは、この設定にします。センターチャンネルの信号はメインのL、Rスピーカに同じレベルで振り分けられます。

2. REAR SP (リアスピーカ)

選択範囲: LARGE/SMALL
初期設定: LR(Large)

REAR SP>LRG

LR(Large)

低音域の再生能力が十分にある大型のリアスピーカを使用したり、リアスピーカとサブウーファをスピーカケーブル結線で接続するときは、この設定にします。リアチャンネルの信号は全てリアスピーカに出力されます。

SML(Small)

小型のリアスピーカなどで低音域の再生を十分にできないときは、この設定にします。リアチャンネル信号のうち低音域(90Hz以下)は、「BASS OUT」の設定によってSUBWOOFER OUTPUT端子またはメインスピーカに出力されます。

3. MAIN SP (メインスピーカ)

選択範囲: LARGE/SMALL
初期設定: LR(Large)

MAIN SP>LRG

LR(Large)

低音域の再生能力が十分にある大型のメインスピーカを使用するときは、この設定にします。メインチャンネルの信号は全て左右メインスピーカに出力されます。

SML(Small)

小型のメインスピーカなどで低音域の再生を十分にできないときは、この設定にします。(ただし、サブウーファを使用しないときはLRに設定してください。)

メインチャンネル信号のうち低音域(90Hz以下)は、「BASS OUT」の設定がSWかBOTHのとき、SUBWOOFER OUTPUT端子に出力されます。

4. BASS OUT (バスアウト)

選択範囲: SW/MAIN/BOTH
初期設定: BOTH(Bass)

BASS OUT>BOTH

SW(Subwoofer)

サブウーファを使用するときは、この設定にします。ドルビーデジタル、DTSソースを再生すると、LFEと他チャンネルの低音域(90Hz以下)はSUBWOOFER OUTPUT端子から出力されます。

メモ

- テープ、CD、MD、ビデオテープなどの2チャンネルソースを再生するときは、BOTHを選んでください。

MAIN(Main)

サブウーファを使用しないとき、この設定にします。メインチャンネル信号の全域に加え、LFEと、1~3の設定によっては他のチャンネルの低音域(90Hz以下)もメインスピーカに出力されます。

BOTH(Bass)

サブウーファを使用するときは、この設定にします。LFEはSUBWOOFER OUTPUT端子から、低音域はメインスピーカとSUBWOOFER OUTPUT端子の両方から出力されません。

5. MAIN LVL (メインレベル)

選択範囲: NORM / -10dB
初期設定: NORM(ノーマル)

MAIN LVL > NORM

NORM(ノーマル)

通常はこの設定にします。

-10dB

メインスピーカの音量レベルが大きすぎて、センターやリアスピーカの音とのバランスがとれないとき、この設定にします。メインスピーカの音量レベルを約1/3に下げることができます。

メモ

- 1～4の各設定はEXTERNAL DECODER INPUT端子から入力した音声には影響しません。
- 1～5は一度設定しておけば、スピーカシステムを変更しないかぎり設定を変更する必要はありません。

6. D.D.LFE (ドルビーデジタルLFE)

選択範囲: -20dB～0dB(1dBステップ)
初期設定: 0dB

D、D、LFE 0dB

メモ

- この設定は、LFEチャンネル信号が含まれるドルビーデジタルのソース再生時、ドルビーデジタルデコーダが動作する場合のみ有効です。

LFEチャンネルの出力レベルを調節します。LFEチャンネルの音が他チャンネルの音と同時に同じスピーカから出力されるとき、そのチャンネルの音に対するLFEチャンネルの音の大きさを調節することができます。

7. D-RANGE (ダイナミックレンジ)

選択範囲: MAX/STD/MIN
初期設定: MAX(マックス)

D-RANGE > MAX

メモ

- この設定はドルビーデジタルデコーダの動作時のみ有効です。

ダイナミックレンジとは、ソースに含まれる最大音から最小音までの幅のことです。映画音声はもともと映画館用にダイナミックレンジ(音量幅)が大きくされているのですが、ドルビーデジタル技術は、もとの音声のダイナミックレンジを変えることなく家庭用の音声フォーマットに変換します。ダイナミックレンジが極端に大きな力強いサウンドは、ときに家庭での再生に向かないことがあります。視聴する環境によっては映画館並みの大音量も可能かもしれませんが、お部屋にあわせた通常の音量では、小さな音は周囲の音のために聞き取れないこともあります。ドルビーデジタルの場合、サウンドデータを圧縮することでダイナミックレンジを小さくすることができます。

MAX(マックス)

映画館での再生時と同じダイナミックレンジで、力強い音声が楽しめます。視聴専用の防音処理されたお部屋でご使用ください。

STD(スタンダード)

一般家庭で再生する場合のためにダイナミックレンジが圧縮されています。

MIN(ミニマム)

深夜の視聴など小音量でも聴きやすいよう、ダイナミックレンジはSTDよりさらに小さくなります。

メモ

- MINに設定すると、ソースによっては音がかすれたり正常に出力されないことがあります。その場合はMAXがSTDを選択してください。

8. DTS LFE

選択範囲: -10dB ~ +10dB(1dBステップ)

初期設定: 0dB

DTS LFE 0dB

メモ

- この設定は、LFEチャンネル信号が含まれるDTSのソース再生時、DTSデコーダが動作する場合のみ有効です。

LFEチャンネルの出力レベルを調節します。LFEチャンネルの音が他チャンネルの音と同時に同じスピーカから出力されるとき、そのチャンネルの音に対するLFEチャンネルの音の大きさを調節することができます。

9. CNTR DELAY (センターディレイ)

選択範囲: 0ms ~ 5ms(1msステップ)

初期設定: 0ms

CNTR DELAY 0ms

メモ

- この設定は、センターチャンネル信号が含まれるドルビーデジタル、DTSのソース再生時、ドルビーデジタル、DTSデコーダが動作する場合のみ有効です。

センターチャンネルの音の出力をメインチャンネルの音より遅らせる調節です。

センタースピーカをメインL、Rスピーカと同一線上に設置する場合など、センタースピーカとの距離が短い分、センターの音がメインの音よりも早く聞こえてしまうときに調節してください。センターチャンネルの音を遅らせて、メインの音と同時に視聴位置に届くように調節することで、音のずれが解消されます。センターディレイの値を1ms増やすごとにセンタースピーカの位置を約30cm仮想的に遠ざけることができます。

10. MEM.GUARD (メモリーガード)

選択範囲: ON/OFF

初期設定: OFF

MEM.GUARD>OFF

セットメニュー項目の設定の他、本機で行われた設定を誤操作による変更から守ることができます。以下の項目が保護されます。

- メモリーガード以外のセットメニュー項目
- TIME/LEVELによるディレイタイムとスピーカレベルの設定
- TESTによるスピーカバランスの設定

11. SAT (SAT/D-TV) INPUT

選択範囲: AUTO/LAST

初期設定: AUTO

SAT INPUT>AUTO

SAT/D-TVの入力モード(20ページ)を設定します。

AUTO

入力モードは常にAUTOに設定されています。

LAST

本機をオフにするときの入力モードを記憶し、次に電源を入れたとき、記憶した入力モードを自動的に選択します。



ディレイタイムとスピーカレベルの調節

ディレイタイムは各音場プログラムごとに最適値がそれぞれプリセットされていますので、通常は初期値のままで十分お楽しみいただけます。また、スピーカレベルもテストトーンで調節されていれば各音場効果をお楽しみいただけます。しかし、必要があれば、再生音を聴きながらソースやリスニングルームの状況に応じてさらに調節することができます。

ディレイタイム

メインスピーカの音とリアスピーカのサラウンド音が出力される際の時間差をディレイタイムといいます。数値を大きくするほどサラウンド音が遅れて出力され、音場空間が大きく感じられます。ディレイタイムは各音場プログラムごとに設定することができます。

メモ

- ソースによっては、ディレイタイムを大きくしすぎると音場効果が不自然になることがあります。
- ディレイタイムを調節しているとき、音声が一瞬とぎれることがあります。

	プログラム名	可変範囲 (ms)	初期設定
1.	PRO LOGIC/Normal	15 ~ 30	20
	DOLBY DIGITAL/Normal	0 ~ 15	5
	DTS DIGITAL SUR/Normal	0 ~ 15	5
	PRO LOGIC/ENHANCED	15 ~ 30	20
	DOLBY DIGITAL/ENHANCED	0 ~ 15	5
2.	DTS DIGITAL SUR/ENHANCED	0 ~ 15	5
	70 mm SPECTACLE	15 ~ 30	23
	DGTL SPECTACLE	1 ~ 99	15
	DTS SPECTACLE	1 ~ 99	15
	70 mm SCI-FI	15 ~ 30	20
3.	DGTL SCI-FI	1 ~ 99	16
	DTS SCI-FI	1 ~ 99	16
	70 mm ADVENTURE	15 ~ 30	20
	DGTL ADVENTURE	1 ~ 99	15
	DTS ADVENTURE	1 ~ 99	15
4.	70 mm GENERAL	15 ~ 30	20
	DGTL GENERAL	1 ~ 99	15
	DTS GENERAL	1 ~ 99	15
5.	MONO MOVIE	1 ~ 99	49
6.	TV SPORTS	1 ~ 99	9
7.	DISCO	1 ~ 99	40
8.	ROCK CONCERT	1 ~ 99	16
	CONCERT HALL	1 ~ 99	44

スピーカレベル

必要ならば、「スピーカレベルの調節 (16ページ)」で一度設定した各スピーカの音量レベルを、再生音を聞きながらソースにあわせて調節することができます。

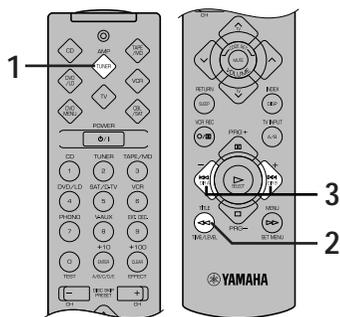
メモ

- 以下の場合センタースピーカのレベルは調節できません。
 - アナログ、PCM、2チャンネルドルビーデジタル信号入力時
 - セットメニューのCENTER SPでNONE選択時(センターチャンネルが左右メインスピーカから出力されるため)
- スピーカレベルの調節は、全ての音場プログラムに共通して設定されます(音場プログラムごとにはできません)

スピーカ	可変範囲 (dB)	初期設定
センター	- 20 ~ + 10	0
リアR	- 20 ~ + 10	0
リアL	- 20 ~ + 10	0
サブウーファ	- 20 ~ 0	0

調節のしかた

リモコンを使ってディスプレイを見ながら調節してください。



3 + または - キーを押してディレイタイム、スピーカレベルを調節する。



4 手順の2と3を繰り返し他の項目を設定する。

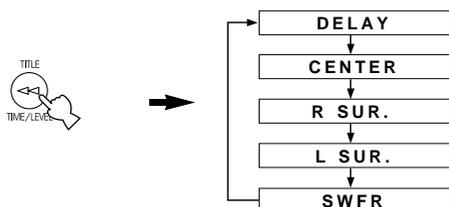
メモリーバックアップについて
 本機がスタンバイモードになっても、セットした内容は消えずに記憶(メモリー)されます。ただし、1週間以上電源コードが電源コンセントからはずれていたり、電気が供給されなかった場合には、メモリーが消えます。その場合はもう一度セットしなおしてください。

1 AMP (TUNER)モードキーを押す。



2 TIME/LEVELキーを繰り返し押し押しして調節したい項目を選ぶ。

キーを押すたびに項目が以下のように切り換わり、ディスプレイに表示されます。



メモ

- セットメニューの設定によっては選択できない項目があります。



スリープタイマー

設定した時間が経過すると自動的にスタンバイモードになるので、聴きながらおやすみになれます。リモコンで操作しません。

メモ

- 再生する機器に応じてモードキーのAMP(TUNER)、TAPE/MD、CDまたはDVD/LDを押してから操作します。
- 本機のSWITCHED AC OUTLETのコンセントに接続した機器(ソース)を選びます。それ以外の機器を選ぶと、設定した時間が経過してもソース側の機器はオフになりません。

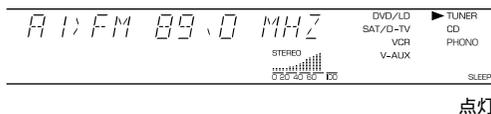
スリープタイマーのセットのしかた

1 ソースを再生する。

2 SLEEPキーを押して時間を設定する。
押すごとに次のように表示され、切り換わります。(単位:分)

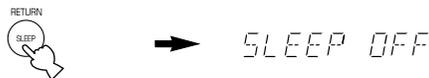


3 セットが完了するとSLEEPインジケーターが点灯する。通常のディスプレイ表示に戻ります。



スリープタイマーの解除

“ SLEEP OFF ”と表示されるまでSLEEPキーを押しつづけます。
SLEEPインジケーターが消えます。



メモ

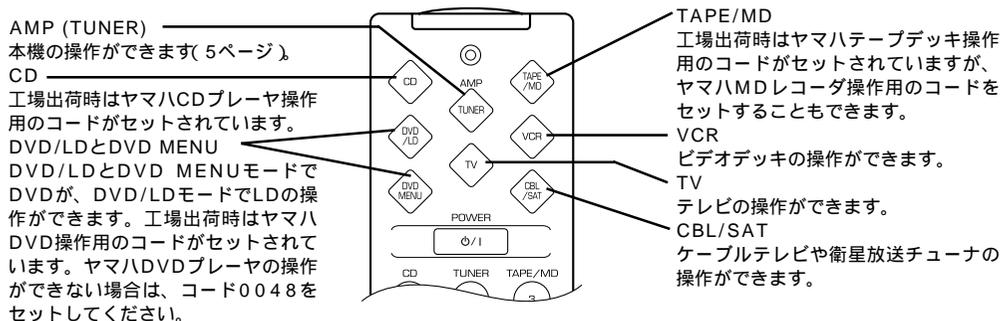
- POWERキー(またはフロントパネルのSTANDBY/ONスイッチ)で本機をスタンバイモードにするか、電源コンセントから電源コードを抜いても、スリープタイマーを解除できません。



リモコンで接続機器を操作する

本機のリモコンにはヤマハの機器を操作するための信号がすでにセットされていますが、さらに他社の機器もそれぞれのメーカーコードをセットすれば操作することができます。

リモコンには8つのモードキーがあります。操作したい機器に対応するモードキーを押してから操作してください。たとえば、CDモードキーを押せば、リモコンがCDを操作するモードに切り換わり、CDプレーヤの操作ができます。

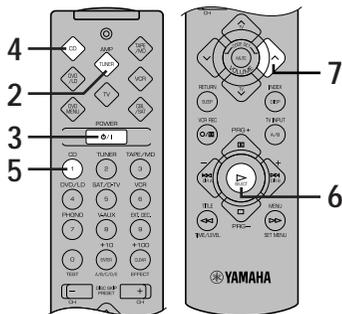


メモ

- 操作モードによってキーの機能が変わります。39～42ページをご覧ください。

接続機器の操作のしかた

例：ヤマハCDプレーヤでCDを再生するには



1 VOLUMEつまみが∞になっていることを確認する。

2 AMP (TUNER)モードキーを押す。



3 電源をオンにする。



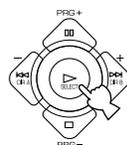
4 CDモードキーを押す。



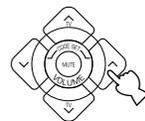
5 インプットセクタでCDを選ぶ。



6 ▶キーを押す。
CDプレーヤの操作ボタンについては40ページをご覧ください。



7 音量を調節する。



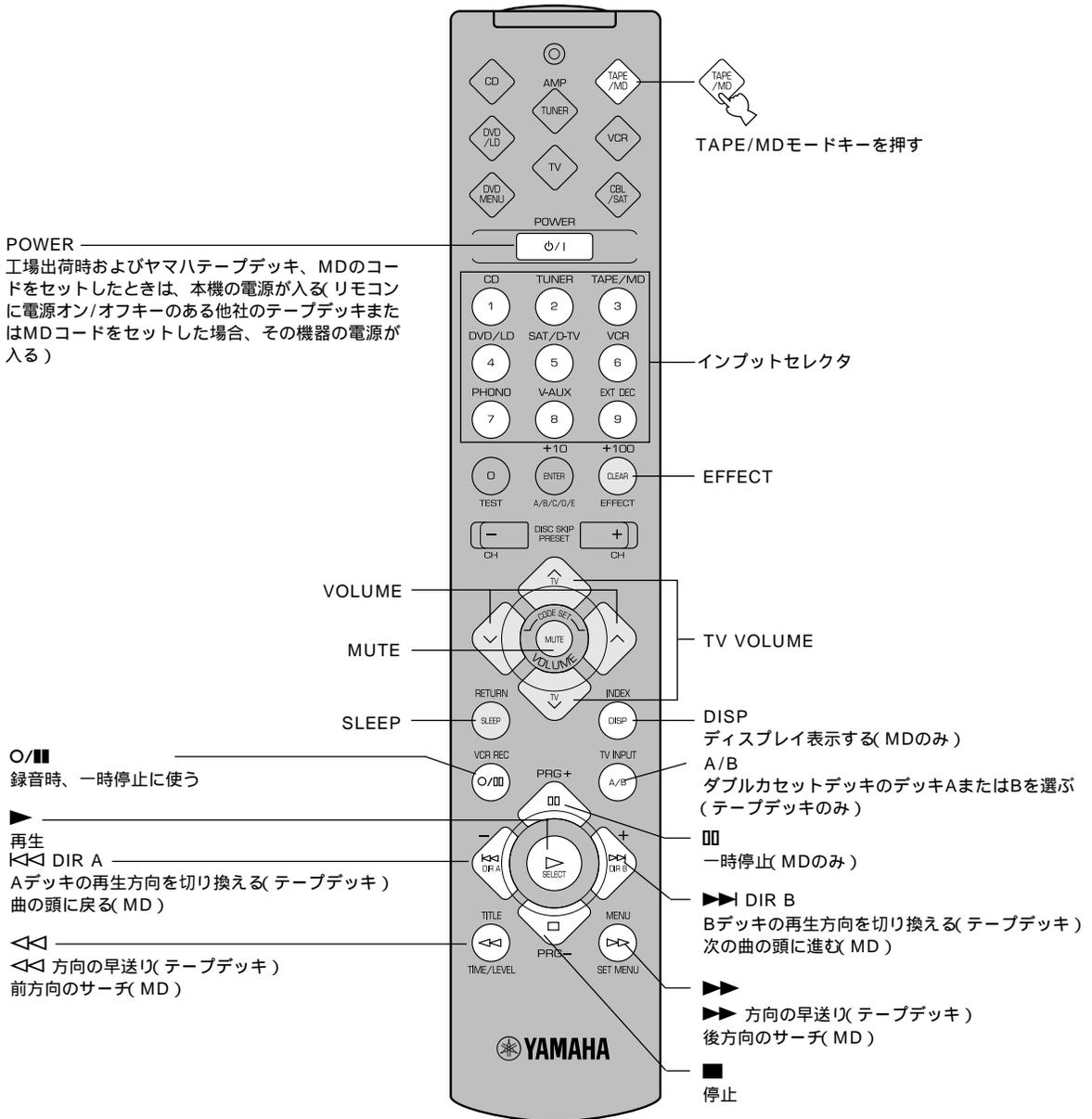
45ページのメーカーコード一覧表のコードをセットすれば他社の機器を操作することができます。「コードのセットのしかた」(43ページ)をご覧ください。

各モードのリモコン機能

TAPE/MDモード

メモ

- TV VOLUMEキーは、テレビ操作用のコードをセットしてから操作できます。



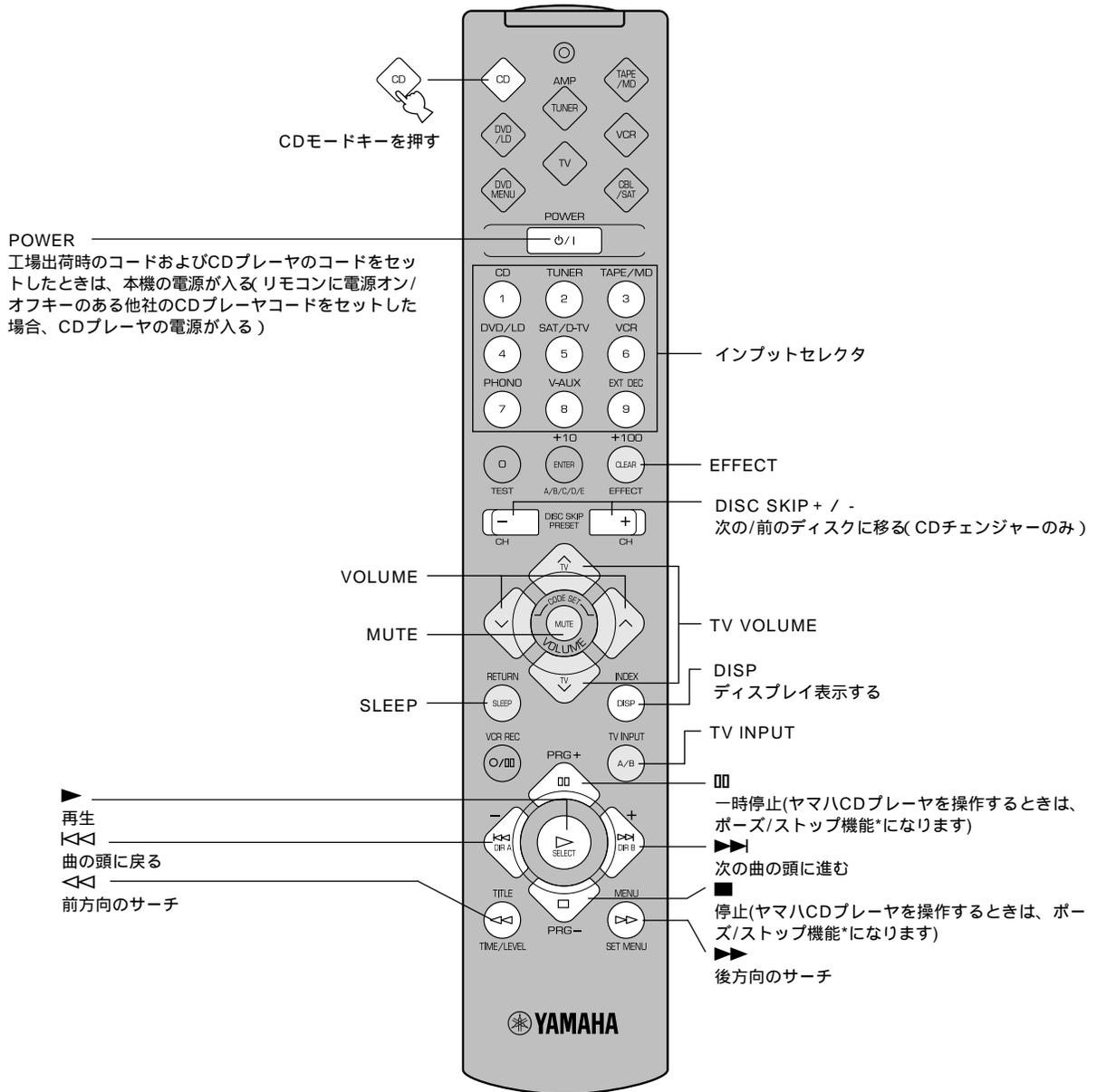
応用操作

リモコン本体と同じ、濃い灰色になっているキーは機能しません。また、詳しい操作については各接続機器の取扱説明書もご覧ください。

CDモード

メモ

- TV VOLUMEキーとTV INPUTキーは、テレビ操作用のコードをセットしてから操作できます。



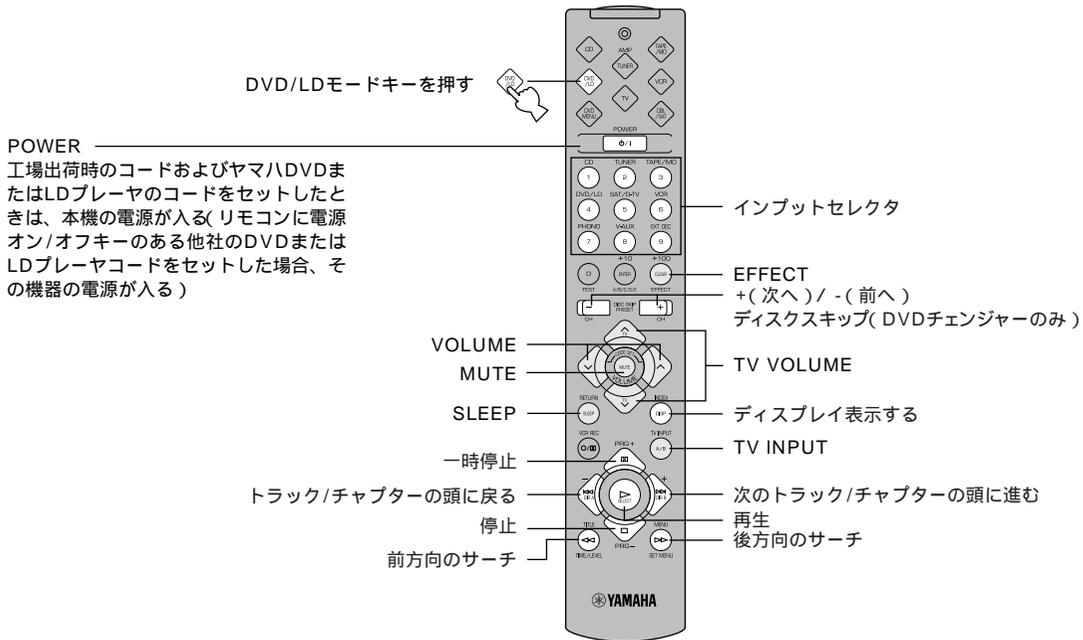
* 一度押すと一時停止 (ポーズ)、2度押すと停止 (ストップ) します。

リモコン本体と同じ、濃い灰色になっているキーは機能しません。また、詳しい操作については各接続機器の取扱説明書もご覧ください。

DVD/LDモード

メモ

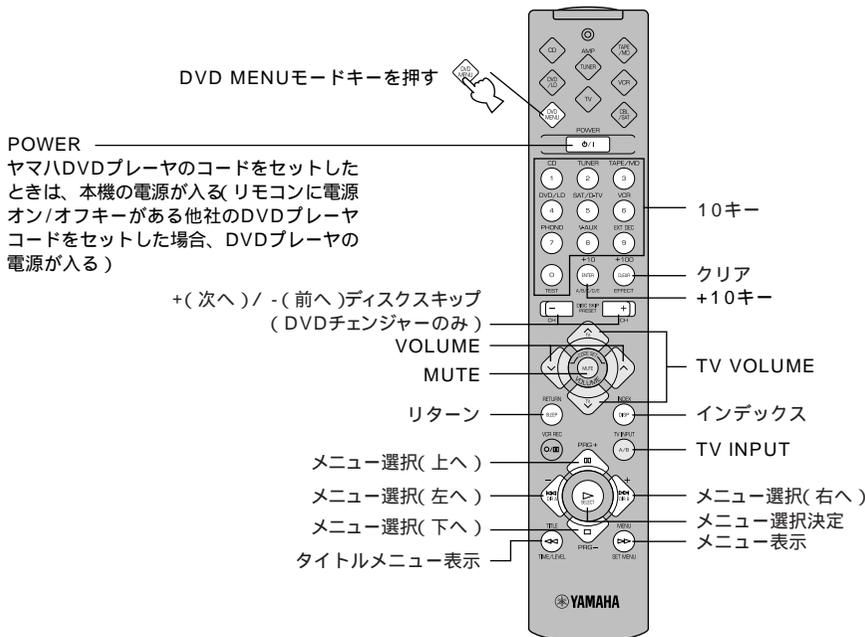
- TV VOLUMEキー、TV INPUTキーは、テレビ操作用のコードをセットしてから操作できます。



DVD MENUモード

メモ

- TV VOLUMEキー、TV INPUTキーは、テレビ操作用のコードをセットしてから操作できます。

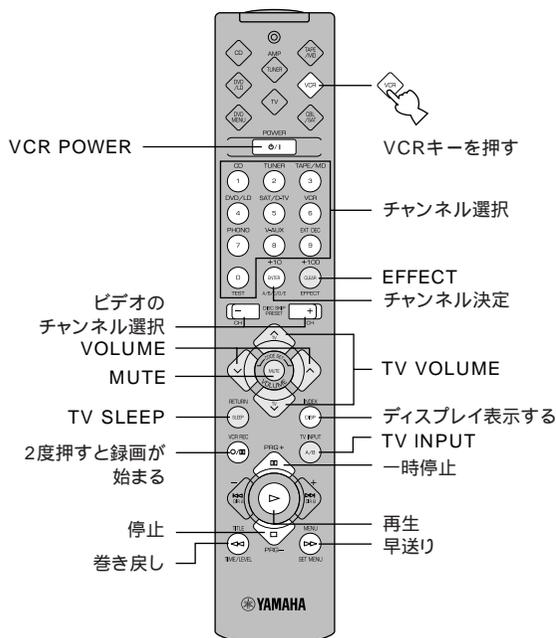


リモコン本体と同じ、濃い灰色になっているキーは機能しません。また、詳しい操作については各接続機器の取扱説明書もご覧ください。

VCR モード

メモ

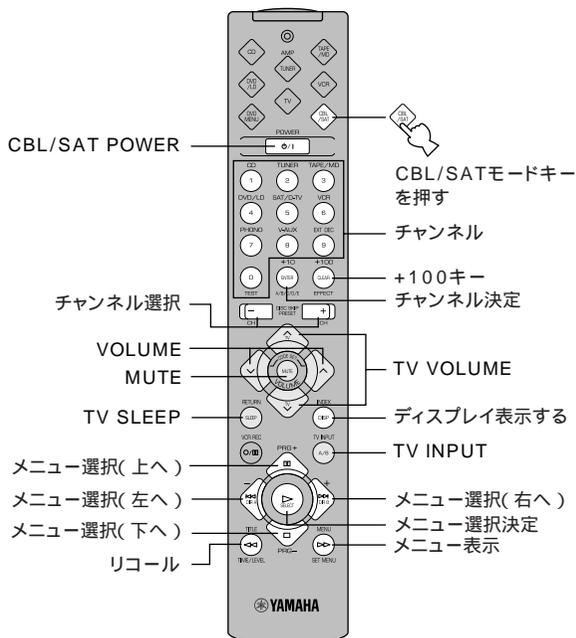
- TV VOLUMEキー、TV INPUTキー、TV SLEEPキーは、テレビ操作のコードをセットしてから操作できます。



CBL/SATモード

メモ

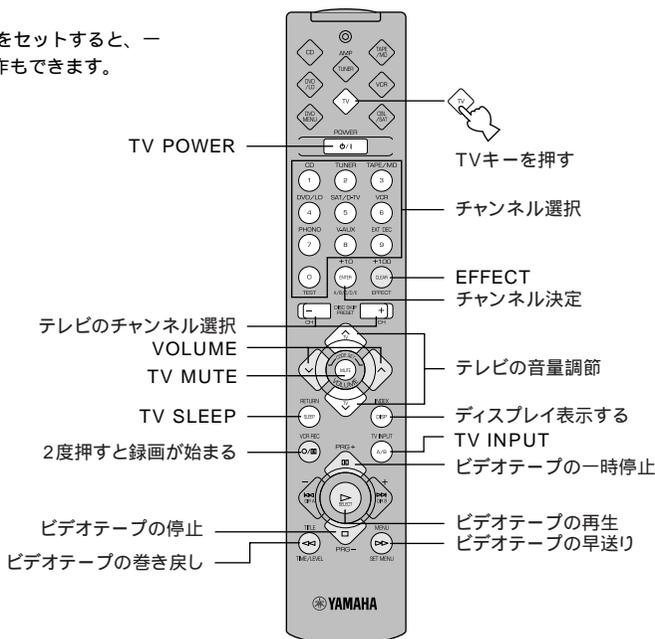
- TV VOLUMEキー、TV INPUTキー、TV SLEEPキーは、テレビ操作のコードをセットしてから操作できます。



TVモード

メモ

- VCRにビデオデッキのコードをセットすると、一部のキーでビデオデッキの操作もできます。



リモコン本体と同じ、濃い灰色になっているキーは機能しません。また、詳しい操作については各接続機器の取扱説明書もご覧ください。

コードのセットのしかた

リモコンにコードをセットするには

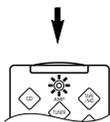
本機のリモコンに、お手持ちの機器のメーカーコードをセットすることができます。まずAMP (TUNER)モードキーを押してから行います。

1 セットする機器の電源をオンにする。

2 セットする機器のモードキーを押す。

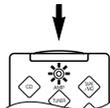
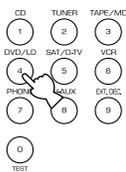


3 VOLUME へ / へ キーを同時に約4秒間押し続ける。送信インジケータが2回点滅します。



4 数字キーを使って機器のメーカーコード(4桁)を入力し、送信インジケータが2回点滅するのを確認する。

点滅しないときは、手順3に戻って、もう一度コードを入力し直してください。



5 POWERキー(またはその他の操作キー)を押してみ、コードが正しくセットされたか確認する。

操作できない場合は、同じメーカーの他のコードをセットしてください。



メモ

- 1つのモードにつき1つのメーカーコードがセットできます。
- DVD/LDモードとDVD MENUモードにセットするとき：
 - DVDまたはLDプレーヤのコードをセットするときは、DVD/LDモードキーを押してください。DVDプレーヤのコードをDVD/LDモードにセットすると、DVD MENUモードにも同様にセットされます。DVD MENUモードキーを押しても、DVDプレーヤのコードをセットすることはできません。
 - DVDプレーヤによってはDVD MENUモードでの操作ができないものもあります。
- 2台目、3台目のビデオデッキをリモコンで操作することもできます。「2台目(3台目)のビデオデッキコードをセットするには」をご覧ください。
- どのメーカーコードをセットしても操作できないときは、その機器に付属のリモコンをお使いください。

2台目(3台目)のビデオデッキコードをセットするには

ケーブルテレビや衛星放送チューナを使用しないときはCBL/SATモードに、またDVDプレーヤを使用しないときはDVD MENUモードに、2台目(3台目)のビデオデッキのコードをセットできます。

メモ

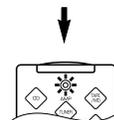
- DVD MENUモードにビデオデッキコードをセットするときは、必ずDVD/LDモードにLDプレーヤのコードをセットしてから行ってください(工場出荷時にDVDプレーヤのコードがDVD MENUにセットされているため)。また、LDプレーヤを接続していない場合や、LDプレーヤを本機のリモコンで操作しない場合でも、いずれかのLDプレーヤコードをセットしてください。

1 ビデオデッキの電源をオンにする。

2 CBL/SATまたはDVD MENUモードキーを押す。

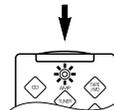
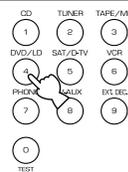


3 VOLUME へ / へ キーを同時に約4秒間押し続ける。送信インジケータが2回点滅します。



4 数字キーを使ってビデオデッキのメーカーコード(4桁)を入力し、送信インジケータが2回点滅するのを確認する。

点滅しないときは、手順3に戻って、もう一度コードを入力なおしてください。



5 POWERキー(またはその他の操作キー)を押してみ、コードが正しくセットされたか確認する。

操作できない場合は、同じメーカーの他のコードをセットしてください。



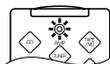
工場出荷時のコードに戻すには

全てのモードを工場出荷時のコードに戻すには次のようにしてください。

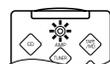
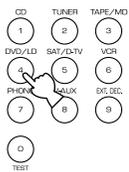
- 1** AMP (TUNER)以外のモードキーを押す。



- 2** VOLUME へ / へ キーを同時に約4秒間押し続ける。送信インジケータが2回点滅します。



- 3** 数字キーを使って9990を入力する。送信インジケータが2回点滅するのを確認してください。

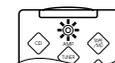


各モードを工場出荷時のコードに戻すには次のようにしてください。

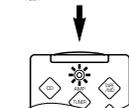
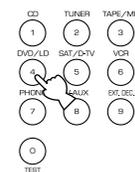
- 1** 工場出荷時のコードに戻したいモードキーを押す。



- 2** VOLUME へ / へ キーを同時に約4秒間押し続ける。送信インジケータが2回点滅します。



- 3** 数字キーを使って0000を入力する。送信インジケータが2回点滅するのを確認してください。



工場出荷時に各モードにセットされているコードは次の通りです。

モード	機器の種類	コード
TV	テレビ	1010
CBL/SAT	衛星放送チューナ	0006
VCR	ビデオデッキ	0002
DVD/LD	DVDプレーヤ	0008 (ヤマハDVDプレーヤ)
CD	CDプレーヤ	0005 (ヤマハCDプレーヤ)
TAPE/MD	テープデッキ	0004 (ヤマハテープデッキ)

セットしたコードをリモコン操作チャートに控えておくことをおすすめします。

メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。

また、他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

テレビ

Hitachi	0181、0351、0671、0681、 0691、0701、0711、0871、 0941、0971、1351
Mitsubishi	0221、0321、0561、0571、 0661、0861、1031、1101、 1381
NEC	0241、0351、0361、0661、 0971、1031、1111、1321、 1711
Panasonic	0101、0191、0251、0751、 1041、1311、1371、1431
Pioneer	0511、0551、0871、1331
Sharp	0461、0471、0541、0661、 0911、0941、1141、1241、 1271
Sony	0371、0451、0661、0841、 0951、1281、1441
Toshiba	0381、0521、0621、0661、 0931、0981、1301
Victor	0641、0651、1201、1211、 1221
Yamaha	0361、1031、1111、0221、 0571、1381、1141

ケーブルチューナ

Pioneer	0006、0086
---------	-----------

衛星放送チューナ

対応メーカーなし

ビデオデッキ

Hitachi	0102、0562、0572、0582、 0592、0602、0992
Mitsubishi	0452、0462、0542、0762、 0952、1082
NEC	0122、0202、0292、0422、 0432、0542、0632
Panasonic	0012、0052、0092、0222、 0372、0382、0392、0412、 0932
Sanyo	0242、0612、0842、0902、 0922
Sharp	0402、0472
Sony	0032、0332、0352、0362、 0672、0792、0932
Toshiba	0062、0302、0342、0622、 0682、0712、0762
Victor	0202、0542、0552、0532
Yamaha	0202、0632、0762

DVDプレーヤ

Panasonic	0048
Pioneer	0208、0228
Sony	0028
Toshiba	0088
Victor	0168
Yamaha	0008、0048

LDプレーヤ

Pioneer	0037、0017、0137
Sony	0047、0057、0117
Yamaha	0007

CDプレーヤ

Acoustic Research	1295
ADC	0025、0065
Adcom	0205、0255、1015
Aiwa	0295、0945、1035、1055
Akai	0175、0485、0535
Audio-Technica	0545
BSR	0245、0655、0775
California Audio Lab	0055
Carver	0285、1135
Crown	0185
Denon	0275、0875、0885
Emerson	0205、0325、1105
Fisher	0095、0555、0925、1005
Garrard	0365
Genexxa	0305、0325、1105
Harman/Kardon	0105、0175、0465、0995
Hitachi	0195、0505、0205、0815
Kenwood	0045、0095、0405、0585、 0725、0735、0745、0755、 0895

Kyocera	0025
Luxman	0075、0425、0675、0705、 0715、0985

Magnavox	0165、0215、0645、0955
Marantz	0375、0215、0235、0785、 1345

Mcintosh	0355、1085
MCS	0905、1315
Memorex	0205、0225、0235、0305、 0325、1105

Mission	0215
Mitsubishi	0135、0445
MTC	1255
NAD	0035、0615、0685、0695
Nakamichi	0125、0435、0515
NEC	0255、0905、0965
Nikko	0545、1005
Onkyo	0155、0455、0495、0805、 1155

Optimus	0225、0245、0555、0595、 0845、0855、0865、0895、 0935
---------	--

Panasonic	0055、0825、1095、1125
Philips	0165、0215
Pioneer	0305、0935、1045
Proton	0215、1185
Quasar	0055

RCA	0205、0915、1115
Realistic	0205、0225、0235、0325、 0555、0845
Revox	1175
Rotel	0215
SAE	0215
Sansui	0215、0625、0975、1025、 1105
Sanyo	0145、0555、0635、0765
Scott	0325、1105
Sears	0345
Sharp	0235、0665、0895、1065、 1075
Sherwood	0115、0235、0395、0475
Sony	0065、0565、0865、1145
STS	0025
Teac	0235、0335、0385、0525、 0795、0835、1355
Technics	0055、0605、1095
Victor	0315
Wards	0175
Yamaha	0005、0015、0575、1065

MDレコーダ

Yamaha	0024
--------	------

テープデッキ

Aiwa	0094、0214、0224
Akai	0184
Carver	0094
Denon	0304
Fisher	0144
Garrard	0194、0204
Kenwood	0124、0134、0154、0234、 0244、0264
Magnavox	0094
Marantz	0094、0344
Mitsubishi	0184
Onkyo	0364、0374
Optimus	0034、0064、0204、0334
Philips	0094
Pioneer	0034、0044、0064
Revox	0354
Sansui	0094、0344
Sharp	0264
Sherwood	0334
Sony	0054、0084、0324
Teac	0194、0254
Technics	0074、0314
Victor	0294
Wards	0034
Yamaha	0004、0014



故障かなとおもったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合、または下記以外で異常がある場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄のヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

全般

状態	考えられる原因	解決方法	参照ページ
STANDBY/ONスイッチを押しても電源が入らない、また入ってもすぐにスタンバイモードに戻ってしまう	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください	15
正常に動作しない	外部からの電気ショック(雷、強い静電気など)により内蔵のマイコンが正常に動作できない	本機をスタンバイモードにし、電源プラグをコンセントから抜き、30秒ほど待ってからもう一度電源を入れ、操作してください	-
音声または映像が出ない	入出力端子の接続が不完全	正しく接続し直し、それでも解決しなければコードを取り替えてください	10、11
	入力ソースが正しく選ばれていない	入力ソースを正しく選んでください	18
	スピーカの接続が不完全	接続を確認してください	13
	SPEAKERS A/Bが正しくセットされていない	SPEAKERS A/Bを正しくセットしてください	18
	ミュート状態になっている	VOLUMEつまみを に合わせてから、MUTEを押してミュート状態を解除してください	19
	CD-ROMなど、本機で再生できないデジタル信号が入力されている	本機に適合するソースを再生してください	-
映像が出ない	ソース側の機器と本機がSビデオ接続されているのに、テレビモニターと本機がSビデオ接続されていない	テレビモニターのSビデオ入力端子と本機のS VIDEO MONITOR OUT端子を接続してください	12
音声が突然消える	ショート防止回路が動作している	本機をスタンバイモードにし、その後電源を入れ直してください	-
	スリープタイマーが動作している	電源を入れ直してもう一度再生してください	37
片方のスピーカから音が出ない	接続が正しくない	正しく接続し直し、それでも解決しなければコードを取り替えてください	13
片方のメインスピーカから音が出ない	バランスが適正に調節されていない	BALANCEつまみで左右メインスピーカの音量バランスを調節してください	19
リア/センタースピーカから音が出ない	音場効果がオフになっている	EFFECTキーを押して音声効果をオンにしてください	22
	ドルビーサラウンド、ドルビーデジタル、DTSでエンコードされていないソースを、それらのデコーダ用音場プログラムで再生している	他の音場プログラムを選んでください	25
センタースピーカから音が出ない	センタースピーカの出力レベルが最小になっている	センタースピーカのレベルを上げてください	35
	セットメニューのCENTER SPでNONEを選んでいる	LRGまたはSMLに設定してください	32
	HiFiオーディオソース用の音場プログラムが選ばれている	他の音場プログラムを選んでください	23、24、25
	ドルビーデジタル、DTSでエンコードされたソース自体にセンターチャンネルの成分(会話など)が少ない	—————	-

状態	考えられる原因	解決方法	参照ページ
リアスピーカから音が出ない	リアスピーカの出カレベルが最小になっている	リアスピーカのレベルを上げてください	35
	音場プログラムのPROLOGIC/ENHANCEDで、モノラルのソースを再生している	モノラルソースに適した音場プログラムを選んでください	25
サブウーファから音が出ない	セットメニューのBASS OUTをSWまたはMAINに設定した状態で、2チャンネルのソースを再生している	BOTHポジションを選んでください	32
	ソース自体に90Hz以下の低音域が含まれていない	_____	-
ハム音が出る	接続が正しくない	正しく接続し直し、それでも解決しなければコードを取り替えてください	10、11
	レコードプレーヤがアースと接続されていない	レコードプレーヤと本機をアース接続してください	10
レコードプレーヤで再生中、音量が低い	MCカートリッジ付のレコードプレーヤプレーヤで再生している	本機と接続するときは必ずMCヘッドアンプを使用してください	10
音量が上がらない、または上げると音が歪む	本機のTAPE/MD OUT (REC)端子に接続されている機器が、スタンバイモードになっている	その機器の電源を入れてください	-
音場効果音が録音されない	本機に接続したテープデッキ、MDレコーダで音場効果をかけた音を録音することはできない	_____	30
DVD、LD、テレビ、デジタル放送、衛星放送のソースを、本機に接続しているテープデッキ、MD、ビデオデッキで録音できない	ソース側の機器と本機がデジタル端子だけで接続されている	アナログ端子どうしも接続してください	11
SET MENU、TIME/LEVEL、TESTキーを使った設定ができない	セットメニューのMEM.GUARDがONになっている	MEM.GUARDをOFFに設定してください	34

チューナ

状態	考えられる原因	解決方法	参照ページ	
FM	ステレオ放送受信中にノイズが多く聴きにくい	放送局からの距離が遠いか、アンテナ入力弱い	アンテナの接続を確認してください FM屋外アンテナを設置してください マニュアル選局してください	8、26
	FM簡易アンテナを接続しているが、音がひずむなど受信感が悪い	何らかの電波干渉を受けている	アンテナの設置位置を変えてください	8
	受信したい放送局のオート選局ができない	受信している局の電波が弱い	マニュアル選局してください 受信地域の電界強度にあったアンテナを設置してください	8、26
	プリセットした放送局が呼び出せない	(長い間電源プラグをコンセントから抜いていたためなどで)プリセット局が消えている	もう一度プリセットしてください	27
AM	受信したい放送局のオート選局ができない	電波が弱いかアンテナの接続が不完全	AMループアンテナをしっかり接続し、向きを変えてみてください マニュアル選局してください	9、26
	ジー、ザー、ガリガリなどの雑音が入る	雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付の電気器具の雑音を拾っている	AM屋外アンテナをはり、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です	9
	ブンブン、ヒューヒューなどの雑音が入る(特に夕方)	本機の近くでテレビを使用している	本機からテレビを離してください	-

リモコン

状態	考えられる原因	解決方法	参照ページ
本機を操作できない	受信部に直射日光やインバーター蛍光灯などの照明が当たっている	本体または照明の向きを変えてください	はじめに
	乾電池が消耗している	乾電池を交換してください	はじめに
他の機器を操作できない	操作したい機器の操作モードになっていない	操作したい機器のモードキーを押してください	8
	メーカーコードが正しくセットされていない	コードをセットし直してください	43
		同じメーカーの別のコードを入れてみてください	

その他

状態	考えられる原因	解決方法	参照ページ
本機に接続しているテープデッキやCDプレーヤのソースをヘッドフォンで聴くと音が歪む	本機がスタンバイモードになっている	本機の電源をオンにしてください	-
デジタル機器や高周波機器からのノイズ干渉がある	本機とそれらの機器を近づけすぎている	それらの機器と離れた所に設置してください	-

DTSでエンコードされたソースを再生するとき

状態	考えられる原因	解決方法	参照ページ
大きなノイズが出る	プレーヤと本機のデジタル端子が接続されていない	デジタル端子どうしを接続してください	11
	入力モードがANALOGになっている	入力モードをAUTOかDTSにしてください	20
カタカタというノイズが出る	ソースによっては本機が入力信号を識別する間にノイズが出ることもある	入力モードをDTSにしてください	20
入力モードをAUTOにして再生しても音が出ない	プレーヤ側にデジタルの出力レベル調節があり、なんらかの調節がされているため、DTS信号がそのまま出力されない	DTS信号が元のまま出力されるように、プレーヤ側の出力レベルを初期値にしてください	-
DTSでエンコードされたソースを録音したMDやDATを再生しても音が出ない	DTSエンコードされたソースをMDやDATで録音することはできない	_____	-
入力モードをAUTOにしているのに、CDを再生しても音が出ない	AUTOモードでDTSのデコーダの動作中は、CDなどPCMのデジタル信号を再生できない	入力モードをもう一度AUTOにセットしてください	21

メモ

- DTSでエンコードされたソースを再生するには、入力信号が本機内蔵のDTSデコーダによって処理されなければなりません。そのためには本取扱説明書に従って、必ずプレーヤと本機をデジタル接続してください。DTSデコーダを通らずに本機のDAコンバーターのみを使って再生すると大きなノイズが出力されます。
- DTSでエンコードされたソースの再生中にサーチやスキップをすると、本機の**dts**インジケータが消えます。これは本機がDTSデコードの状態から通常のデジタル(PCM)信号に自動的に切り換わり、ノイズが出力されるのを防ぐためです。



仕様

オーディオ部

- 定格出力
20Hz~20kHz、0.06%THD、6
メインL/R、センター、リアL/R 65W
- 実用最大出力(EIAJ)
1kHz、10%THD、6
メインL/R、センター、リアL/R 95W
- ダンピングファクター
20Hz~20kHz、8 60
- 入力感度/インピーダンス
CD他 150mV/47k
EXT. DECODER 150mV/40~47k
- 出力電圧
REC OUT 150mV/1.2k
SUBWOOFER 4.0V/1.2k
PHONES 0.47V/390
- 周波数特性
CD他 メインL/R 20Hz~20kHz、 0 ± 0.5 dB
- 全高調波歪率(20Hz~20kHz)
CD他 メインL/R、1/2出力、8 0.025%
- 信号対雑音比(IHF-A)
CD他 メインL/R、150mV(入力ショート)..... 96dB
- 残留ノイズ(IHF-A)
メインL/R 150 μ V
- チャンネルセパレーション(Vol. - 30dB)
CD他 入力5.1k、1kHz/10kHz)..... 60dB/45dB
- トーンコントロール特性
BASS: 可変幅 ± 10 dB(50Hz)
TREBLE: 可変幅 ± 10 dB(20kHz)

ビデオ部

- ビデオ信号方式 NTSC
- ビデオ信号 1Vp-p/75
- 信号対雑音比 50dB
- モニターアウト周波数帯域 5Hz~10MHz、-3dB

FMチューナー部

- 受信周波数範囲 76.0~90.0MHz
- 実用感度(DIN)
モノラル(S/N 26dB)..... 0.9 μ V
ステレオ(S/N 46dB)..... 28 μ V
- 実用選択度
40kHz Dev. ± 300 kHz 55dB
- 信号対雑音比(モノ/ステレオ)
DIN 75dB/69dB
IHF 81dB/75dB
- 歪率(1kHz)
モノラル 0.1%
ステレオ 0.2%
- ステレオセパレーション(1kHz) 48dB
- 周波数特性 20Hz~15kHz、 ± 1 dB
- アンテナ入力 75 アンバランスド

AMチューナー部

- 受信周波数範囲 531~1611kHz
- 実用感度 300 μ V/m
- 信号対雑音比 52dB
- アンテナ ループアンテナ

総合

- 電源電圧 AC 100V 50/60Hz
- 消費電力 185W
- 待機電力 0.9W
- ACアウトレット SWITCHED $\times 2$ 、合計100Wまで
- 寸法(幅 \times 高さ \times 奥行き)..... 435 \times 151 \times 391mm
- 重量 10.0kg
- 付属品 リモコン、単4乾電池(4本)
リモコン操作チャート、簡易接続図、
FM簡易アンテナ、AMループアンテナ

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。



用語集

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル、会話などを再生するセンターチャンネル、効果音のリアチャンネルの、4チャンネル方式を採用しています。リアチャンネルの再生域は狭くなっています。

この方式は現在、ほとんどのビデオテープ、LDの他、テレビ、ケーブル放送などにも広く普及しています。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダが、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声をお届けするデジタルサラウンドシステムです。フロントの3チャンネル(レフト、センター、ライト)と、リアのステレオ2チャンネルがあり、それぞれフル帯域の音声成分を持っています。更にLFE(Low Frequency Effect)と呼ばれる、他のチャンネルとは別に設けられた低音域専用のチャンネルを加え、合計5.1チャンネルとなります(LFEは0.1とカウントされる)。

フル帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジ(最大音から最小音までの幅)と、正確な音の定位が、かつてないような迫力とリアリズムを再現します。

DTS (デジタル・シアター・システム) デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる6チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。その厚みのある音と自然な空間表現を家庭でも楽しめるように、DTSテクノロジー社が家庭用システムを開発しました。極めて劣化の少ないクリアな音質の6チャンネル(技術的にはレフト、ライト、センター、2つのリアチャンネルに、サブウーファー用LFE 0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で、現在のホームシアターの5.1スピーカシステムに対応します。

シネマDSP CINEMA DSP

ドルビーサラウンド、DTSのシステムは、もともと映画館用にデザインされているため、スピーカの数が多く、音響効果を考慮して設計された映画館で、その効果を最大限に発揮します。ご家庭では、当然ながらお部屋の広さ、壁の材質、スピーカの数などの条件が違いため、視聴感に差がでてしまいます。そこでヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を自在に応用し、ドルビープロロジック、ドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて、音のスケールや奥行き、音量感をおぎない、ご家庭のリビングルームで映画館のような視聴体験を可能にします。ヤマハ「シネマDSP」ロゴは、ヤマハDSPテクノロジーと、ドルビーサラウンド、DTSの融合により創り出されたプログラムを表します。

LFE 0.1チャンネル

音声成分の帯域が20~120Hzの低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルおよびDTSにおいて、フル帯域の5チャンネルに対し、効果的な場面で低音を増強するために録音されるので、0.1とカウントされます。

Sビデオ信号

Sビデオ信号は、通常ならピンケーブルで伝送される映像信号(コンポジット信号)を、専用のSビデオケーブルを使って、輝度を表すY信号と色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生することができます。



索引

ア	
アンテナ	8、9
ACアウトレット	15
LFE	33、34、51
音場効果	22
カ	
外部デコーダ	12
サ	
再生	18
シネマDSP	25、51
STANDBY/ON	2
スピーカ	
出力レベル(TIME/LEVELキー使用).....	35
出力モード(セットメニュー設定).....	32、33
スピーカのレベル調節(テストトーン使用).....	16
設置	6
スリープタイマー	37
接続	
アンテナ	8、9
オーディオ機器(テープデッキ、MDレコーダ、 CDプレーヤ、レコードプレーヤ).....	10
デジタル接続	11
スピーカ	13
TVモニター	11
ビデオ機器(DVD/LDプレーヤ、ビデオデッキ、 TV/デジタルTV、衛星放送チューナ).....	11
セットメニュー	31
選局	
オート選局	26
マニュアル選局	26
タ	
DSP音場プログラム	22 ~ 25
ディスプレイ	4
DTSサラウンド	51
ディレイタイム(TIME/LEVELキー使用).....	35
テストトーン	16
トーンコントロール	19
ドルビーサラウンド	51
ドルビーデジタル	51
ナ	
入力モード	20
ハ	
バックグラウンドビデオ機能	19
バランス	19
付属品	はじめに
プリセット局	
プリセット局の呼び出し	28
プリセット局の入れ換え	29
プリセット選局	
オートプリセット	27
マニュアルプリセット	28
フロントパネル	2
マ、ヤ	
ミュート	19
ラ	
リモコン	
基本的な操作	30
電池	はじめに
モードキー	5、38
工場出荷時のコード	44
メーカーコード一覧表	45
コードのセット	43
録音	30

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- 技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- 部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機リアパネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488 - 5500

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

- 北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108
- 仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249
- 首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434 - 3100
- 浜松 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465 - 6711
- 名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230
- 大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262
- 広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787
- 四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内
TEL (087) 822 - 3045
- 九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
営業部 TEL (053) 460 - 3451
品質保証室 TEL (053) 460 - 3405
住所および電話番号は変更になることがあります。



DSP-R496 リモコン操作チャート

本機のリモコンでは、ヤマハ各機器の操作はもちろんのこと、他メーカーの機器もそれぞれのメーカーコードをプリセットすると操作することができます。

ご注意

他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

操作モードについて

本機のリモコンで本機および各機器を操作するには、まずモードキーで選んでから操作します。

AMP (TUNER)
本機を操作する。

CD
工場出荷時はヤマハCDプレーヤー操作用のコードがセットされている。

DVD/LDとDVD MENU
DVD/LDとDVD MENUモードでDVDが、DVD/LDモードでLDの操作ができる。工場出荷時はヤマハDVD操作用のコードがセットされている。ヤマハDVDプレーヤーの操作ができない場合は、コード0048をセットする。

TAPE/MD
工場出荷時はヤマハテープデッキ操作用のコードがセットされている。ヤマハMDレコーダ操作用のコードをセットすることもできる。

VCR
ビデオデッキの操作ができる。

CBL/SAT
ケーブルテレビや衛星放送チューナーの操作ができる。

TV
テレビの操作ができる。

メモ

AMP (TUNER) 以外のモードキーには、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードをプリセットして操作することができます。

AMP (TUNER) モード

本機の操作ができます。

送信インジケータ — 送信インジケータ — リモコンのコントロール信号が正しく送信されると送信インジケータが光る。

モードキー — リモコン操作したい機器を選ぶ。本機を操作するときは、AMP (TUNER) モードキーを押してから操作する。

POWERキー — 本機の電源をオン/待機状態に切り換える。

インプットセクター —

TESTキー — テストトーンをオン/オフする。

MUTEキー — 本機の音を一時的に消す。解除するにはMUTEキーをもう一度押す。

VOLUMEキー — 全体の音量を調節する。

SLEEPキー — スリープタイマーを設定する。

セットメニュー設定キー/タイム・レベル調節キー —

TIME/LEVELキー — ディレイタイム、スピーカー出力を調節するときに押す。

EFFECTキー — 音場プログラムの効果を入/切する。

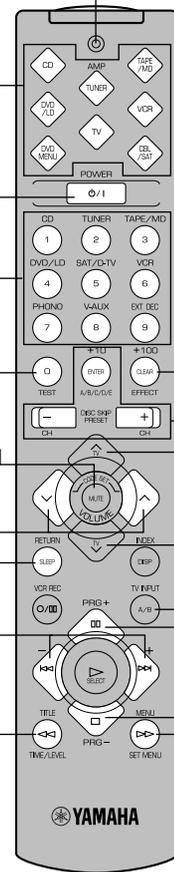
A/B/C/D/Eキー — 本機のプリセットグループを選ぶ。PRESET - / + キー — 本機のプリセットされた放送局を選ぶ。

TV VOLUME

TV INPUT

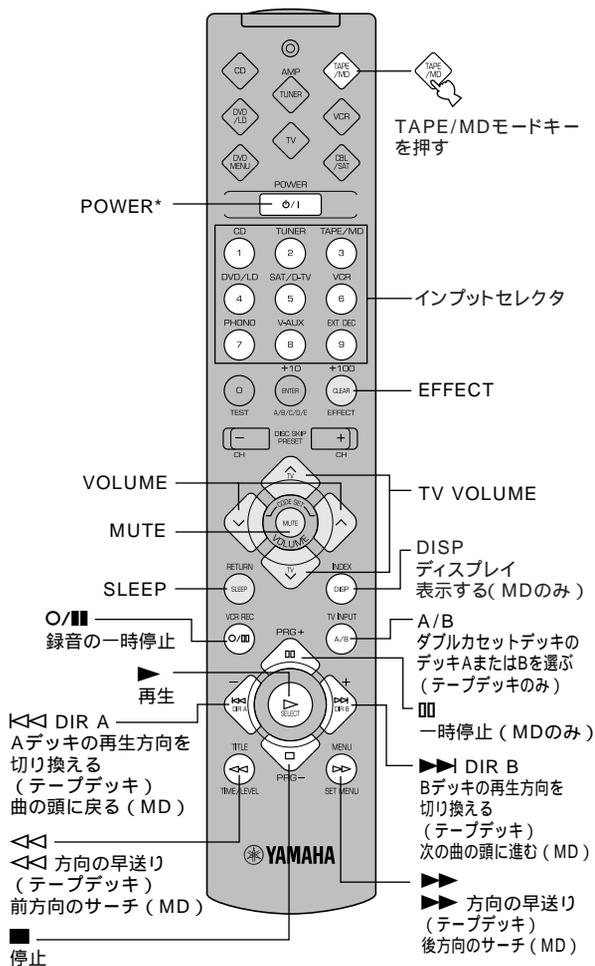
PRG + / - キー — 音場プログラムを選ぶ。

SET MENUキー — セットメニューの項目を選ぶときに押す。



TAPE/MDモード

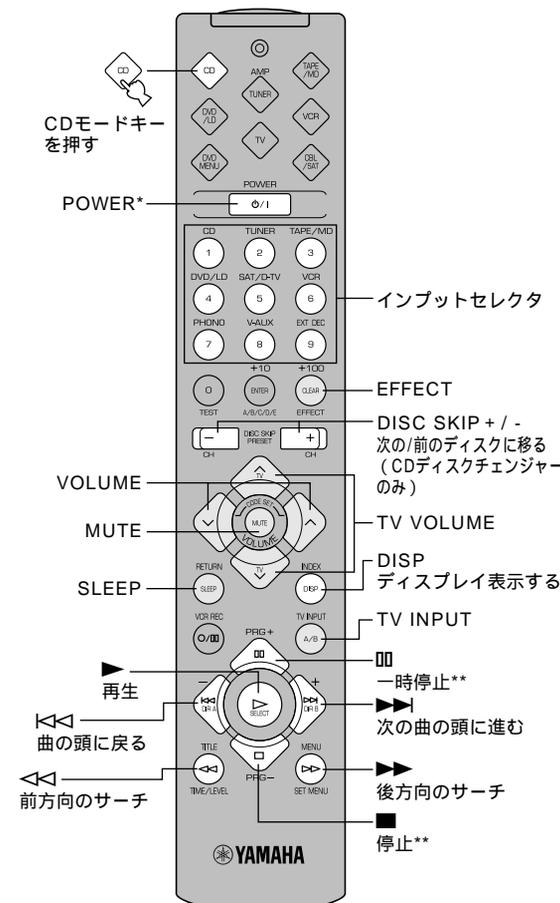
ヤマハのテープデッキが操作できます。MDを操作する場合は、MDコードをプリセットしてください。



* 工場出荷時およびヤマハテープデッキ、MDのコードをセットしたときは、本機の電源が入る。(リモコンに電源オン/オフキーのある他社のテープデッキまたはMDコードをセットした場合、その機器の電源が入る。)

CDモード

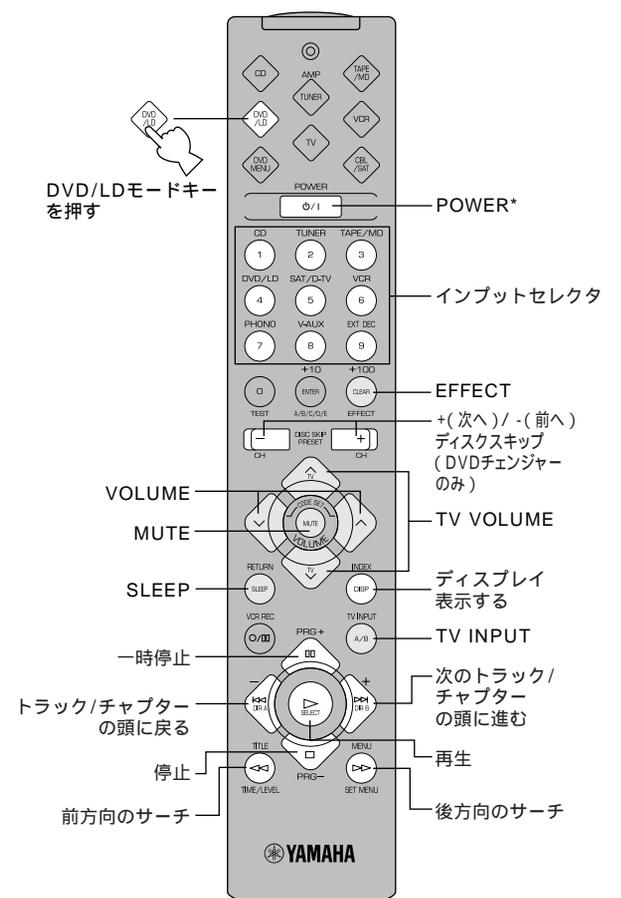
ヤマハのCDが操作できます。



* 工場出荷時のコードおよびCDプレーヤーのコードをセットしたときは、本機の電源が入る。(リモコンに電源オン/オフキーのある他社のCDプレーヤーコードをセットした場合、CDプレーヤーの電源が入る。)
** ヤマハCDプレーヤーを操作するときは、ポーズ/ストップ機能になる。

DVD/LDモード

DVDが操作できます。DVDメニューを操作するときは、DVD MENUモードに切り換えます。LDを操作する場合は、LDコードをDVD/LDモードキーにプリセットしてください。

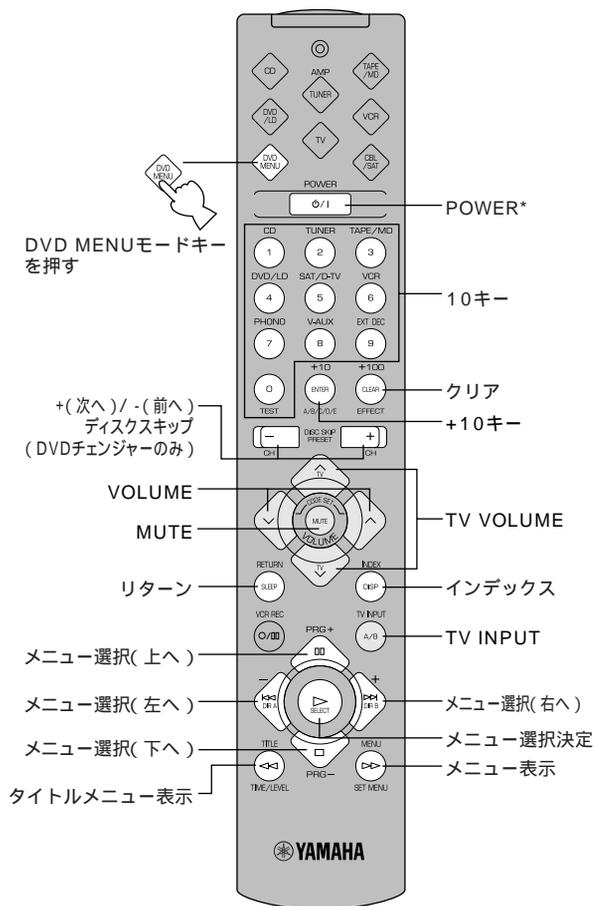


* 工場出荷時のコードおよびヤマハDVDまたはLDプレーヤーのコードをセットしたときは、本機の電源が入る。(リモコンに電源オン/オフキーのある他社のDVDまたはLDプレーヤーコードをセットした場合、その機器の電源が入る。)

DSP-R496 リモコン操作チャート

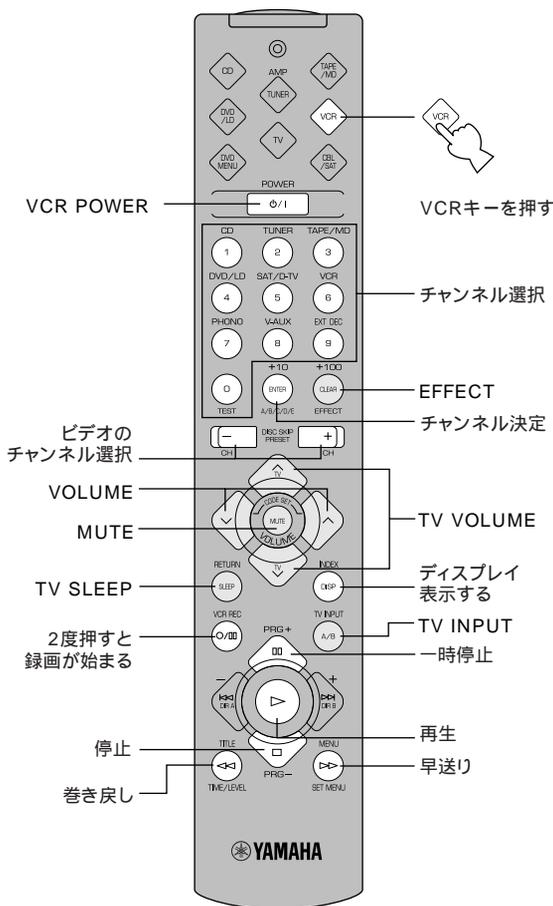
DVD MENUモード

DVDメニューが操作できます。



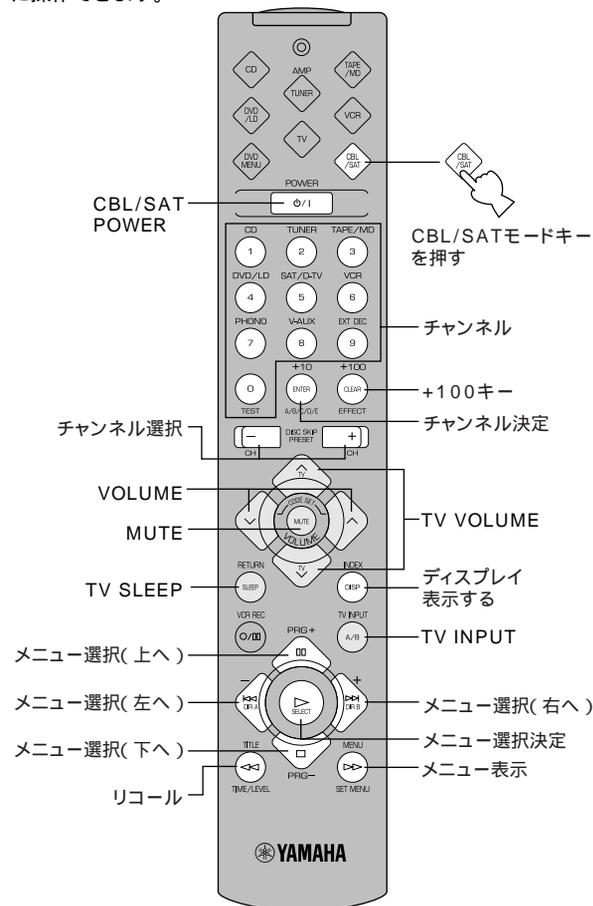
VCRモード

VCRコードをプリセットした後に操作できます。



CBL/SATモード

ケーブルTVや衛星放送チューナのコードをプリセットした後に操作できます。

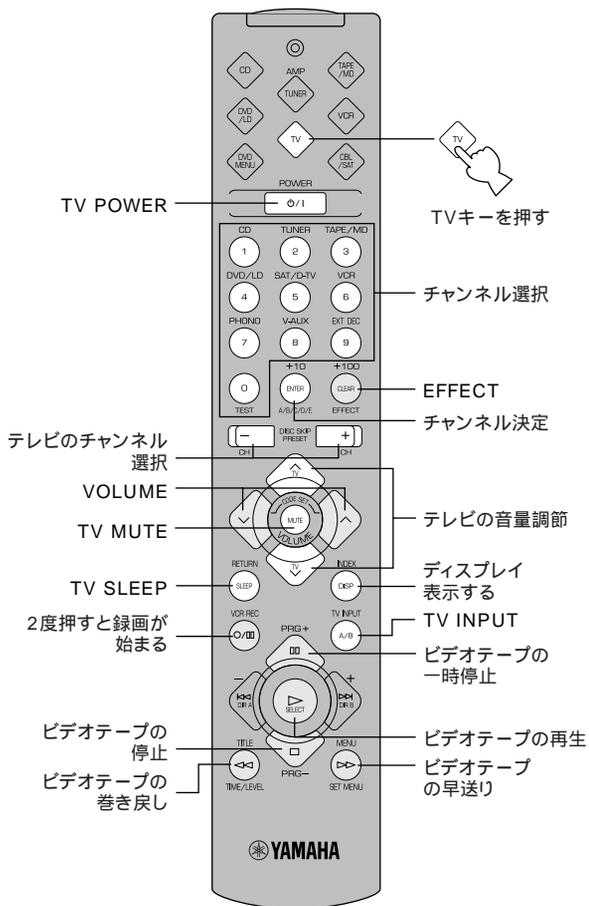


* ヤマハDVDプレーヤのコードをセットしたときは、本機の電源が入る。(リモコンに電源オン/オフキーがある他社のDVDプレーヤコードをセットした場合、DVDプレーヤの電源が入る。)

TVモード

TVコードをプリセットした後に操作できます。

くわしくは、本機の取扱説明書をご覧ください。また、本機以外の機器を操作する場合、機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもありますので各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



* VCR RECキーは2回押しすることで操作信号が出力されます。

DSP-R496簡易接続図（5.1チャンネルのデジタルソースを再生するとき）

